『人文学報』第122号（2024年６月）
（京都大学人文科学研究所）

彙　　報

2023年（令和５年）４月～2024年（令和６年）３月

研　究　状　況
（2023年度）

公募型研究班

仏教天文学説の起源と変容　　班長　小林博行

研究期間　2021年４月～2024年３月（３年目）

研究実施状況

2023年度から新型感染症がおおむね収束したことで，研究会を対面＋zoomのハイブリッドで実施できるようになり，最終的には計25回の研究会を重ねた。『仏国暦象編』訳稿検討については，巻３から最終第５巻の途中までの検討を終え，あわせて巻１・２の編集作業をすすめた。また６月には台湾中央研究院・李建民氏から東アジアの学術の近代的展開にまつわる報告を得，８月にはドイツで開催されたICHSEA 2023に提出したパネル企画「Astral Sciences in Context of Cultural Encounters」が採択され，実施した。12月には，本研究班の活動を総括する人文研アカデミーセミナー「仏教天文学と文化交流」を実施し，多数の参加者を得た。また，今後の訳稿検討・編集に必要な『仏国暦象編』版本などの文献を研究班予算で購入した。なお，かつて科学史研究班が運営に関わり，本研究班の班員らが編集・執筆に加わった拠点共同研究の成果論文集『東アジア伝統医療文化の多角的考察』が，2023年度の研究成果刊行助成を得て刊行されたことを付記しておく。

研究班員

所内：平岡隆二，髙井たかね，宮紀子

学外：小林博行（中部大学），三村太郎（東京大学），豊田裕章（大阪大学），多田伊織（大阪大学），白雲飛（大阪府立大学），梅林誠爾（熊本県立大学），檜山智美（国際仏教学大学院大学），高橋あやの（大東文化大学），橋本敬造（関西大学），矢野道雄（京都産業大学），清水浩子（大正大学），梅田千尋（京都女子大学），吉村美香（愛知淑徳大学），新居洋子（大東文化大学），金子貴昭（立命館大学），岡田正彦（天理大学），Bill Mak（ニーダム研究所），Jeffrey Kotyk（ブリティッシュコロンビア大学），Daniel Monteiro（パリ大学），マティアス・ハイエク（フランス国立高等研究実習院），宮島一彦

研究実施内容

2023年

４月10日　『仏国暦象編』会読　巻3.26a08-29a02
発表者：宮島一彦

４月24日　『仏国暦象編』会読　巻3.29a04-30b06
発表者：平岡隆二
巻3.30b07-32b05
発表者：小林博行（中部大学）

５月８日　『仏国暦象編』会読　巻3.32b06-34a03
発表者：宮島一彦
巻3.34a04-36b03
発表者：矢野道雄（京都産業大学）

５月22日　『仏国暦象編』会読　巻3.34a04-36b03
発表者：矢野道雄（京都産業大学）
巻3.36b04-42a02　発表者：平岡隆二

6月3日　研究報告会 私の二重証拠法
発表者：李建民
台湾中央研究院歴史語言研究所 白鳥庫吉の学説をめぐる日本学術界の反応と王国維「二重証拠法」の形成
発表者：西山尚志（埼玉大学）

6月12日　『仏国暦象編』会読 巻3.36b04-42a02
発表者：平岡隆二
巻3.42a03-44b06
発表者：小林博行（中部大学）

6月26日　『仏国暦象編』会読 巻3.42a03-44b06
発表者：小林博行（中部大学）
巻3.44b07-47a03
発表者：矢野道雄（京都産業大学）

7月10日　『仏国暦象編』会読 巻3.47a04-48a03
発表者：宮島一彦
巻3.48a04-49a01
発表者：矢野道雄（京都産業大学）

7月24日　『仏国暦象編』会読 巻4.01a01-04a02
発表者：小林博行（中部大学）
巻4.04a03-07b03　発表者：宮島一彦

8月22日　Panel ""Astral Sciences in Context of Cultural Encounters,"" ICHSEA 2023, Frankfurt Jesuit Cosmology in Japanaese Translation: A Newly Discovered Manuscript of Sufera no nukigaki（Selection on the sphere）and its significance
発表者：Ryuji HIRAOKA
Islamicate Reading of the Chinese Calendar: Quṭb al-Dīn al-Shīrāzī（1236-1311）'s Note on a Topkapı Fragment（Ahmet III 3455）
発表者：Yoichi ISAHAYA
（北海道大学）
Traditional Time with Changing Rulers: Lunisolar Calendar in Modern Okinawa
発表者：Takuya MIYAGAWA
（広島修道大学）
When George Sarton Met Oriental Science: Shinjo Shinzo's Article on Scientific Japan and Its Transnational Reflections　発表者：Xudong GAO
（東京工業大学／清華大学）
コメンテーター：Lim JONGTAE
（ソウル大学）
コメンテーター：
Christopher CULLEN
（ニーダム研究所）
司会：塚原東吾（神戸大学）

9月4日　『仏国暦象編』会読 巻4.07b04-12b10
発表者：宮島一彦

9月25日　『仏国暦象編』会読 巻4.13a01-29b05
発表者：矢野道雄（京都産業大学）

10月16日　『仏国暦象編』会読 巻4.29b06-31b10
発表者：小林博行（中部大学）
巻4.32a01-33a07　発表者：宮島一彦

10月23日　『仏国暦象編』会読 巻4.33a08-35b04
発表者：梅林誠爾（熊本県立大学）

11月13日　『仏国暦象編』会読 巻4.35b05-36b07
発表者：小林博行（中部大学）
巻4.36b08-37b03　発表者：宮島一彦

11月27日　『仏国暦象編』会読 巻4.37b04-41a07
発表者：宮島一彦
巻4.41a08-43b08
発表者：清水浩子（大正大学）

12月3日　人文研アカデミーセミナー「仏教天文学と文化交流」仏教天文学説の起源と変容」研究班について
発表者：小林博行（中部大学）
6世紀の西域仏教石窟寺院の壁画に見られる須弥山図像について
発表者：檜山智美
（国際仏教学大学院大学）
円通の暦学とその影響 ― 応天暦を中心として ―　発表者：髙橋あやの
（大東文化大学東洋研究所）
良識としての暦道 ― 小嶋濤山『仏国暦象弁妄』と陰陽道の視点
発表者：梅田千尋（京都女子大学）
平面天体儀「両曜運旋略儀」と環中

「須弥山儀」
発表者：梅林誠爾（熊本県立大学）
司会：平岡隆二
12月11日　『仏国暦象編』会読　巻 4.37b04-41a07
発表者：宮島一彦
巻 4.41a08-43b08
発表者：清水浩子（大正大学）
巻 4.43b09-47b01
発表者：梅林誠爾（熊本県立大学）
12月25日　『仏国暦象編』会読　巻 4.47b02-51a08
発表者：矢野道雄
（京都産業大学）

2024 年
1 月15日　『仏国暦象編』会読　巻 4.52b05-54b04
発表者：Bill MAK（ニーダム研究所）
巻 4.54b05-56b08　発表者：宮島一彦
1 月29日　『仏国暦象編』会読　巻 4.51a09-52b04
発表者：清水浩子（大正大学）
巻 4.54b05-57b01　発表者：宮島一彦
2 月12日　『仏国暦象編』会読　巻 5.01a01-02a03
発表者：宮島一彦
巻 5.02a05-03a04
発表者：髙橋あやの
（大東文化大学東洋研究所）
2 月19日　『仏国暦象編』会読　巻 5.03a05-04b06
発表者：小林博行（中部大学）
巻 5.04b07-06a04　発表者：宮島一彦
3 月11日　『仏国暦象編』会読　巻 5.06a05-08a04
発表者：梅林誠爾（熊本県立大学）
巻 08a05-09b09
発表者：小林博行（中部大学）
3 月25日　『仏国暦象編』会読　巻 5.09b10-13a03
発表者：Bill MAK（ニーダム研究所）
発表者：平岡隆二
巻 5.13a04-14b01　発表者：宮島一彦

東アジア災害人文学の構築　　班長　山　泰幸
研究期間　2021 年 4 月～2024 年 3 月（3 年目）
研究実施状況
最終年度にあたる 2023 年度は，対面を基本とし，オンラインを併用した研究会を合計 5 回実施した。第 1 回は京都大学総合博物館特別展「京都白川の巨大土石流 ― 埋もれた先史土砂災害に学ぶ」を企画した冨井眞班員の展示解説をふまえた検討会をおこない，第 2 回は京都大学防災研究所において「風土」をテーマとして上原麻有子班員と山口敬太班員がそれぞれ哲学とまちづくりの異なる視点から研究報告をおこなった。第 3 回は IDRiM 国際総合防災学会でのセッション，第 4 回は人文研アカデミーのシンポジウム「気候変動・災害多発時代に向き合う人文学 ― 東アジア災害人文学の挑戦」により，それぞれ国内外の研究者と一般社会に向けて研究成果を発信した。第 5 回は外部からゲストとして加藤泰史氏と Yoann Moreau 氏を招へいし，哲学・思想の方面からそれぞれ災害について考え，報告と討論をおこなった。
研究班員
所内：向井佑介，岩城卓二，矢木毅，村上衛，平岡隆二，都留俊太郎（10 月末まで）
学内：多々納裕一（防災研究所），矢守克也（防災研究所），中北英一（防災研究所），上原麻有子（文学研究科），大西正光（工学研究科），山口敬太（地球環境学堂），清水美香（総合生存学館）
学外：山泰幸（関西学院大学人間福祉学部），梶谷真司（東京大学大学院総合文化研究科），小川伸彦（奈良女子大学文学部），鍾以江（東京大学東洋文化研究所），関谷雄一（東京大学総合文化研究科），張政遠（東京大学総合文化研究科），加納靖之（東京大学地震研究所），大邑潤三（東京大学地震研究所），冨井眞（大正大学文学部），岡田憲夫（関西学院大学災害復興制度研究所），阿部健一（総合地球環境学研究所），寺田匡宏（総合地球環境学研究所），嶋田奈穂子（総合地球環境学研究所），岡村秀典（黒川古文化研究所）
研究実施内容
2023 年
5 月13日　災害と考古学 京都白川の巨大土石流：埋もれた先史土砂災害に学ぶ
発表者：冨井　眞（大正大学）
8 月27日　災害と風土 風土とまちづくり：共同

体の再編と地域文化の継承・創生
発表者：山口敬太（地球環境学堂）
和辻哲郎の「風土」論再考：風土としての看護的自然の日本芸術
発表者：上原麻有子（文学研究科）
9月28日　Implementation gaps are persistent phenomena in disaster risk management
発表者：岡田憲夫（関西学院大学）
発表者：多々納裕一（防災研究所）
発表者：大西正光（工学研究科）
2024年
2月17日　気候変動・災害多発時代に向き合う人文学：東アジア災害人文学の挑戦 語り交わし編み合う学融の場へ向けて：頻発災難圧を飛翔する
発表者：岡田憲夫（関西学院大学）
気候変動と天道策：災難をさける「理致」 発表者：趙　寛子（ソウル大学）
気候変動と風土変動
発表者：張政遠（東京大学）
現場で活きる人文学の可能性：桜島防災を事例として
発表者：大西正光（工学研究科）
中国災害考古学事始
発表者：向井佑介
司会：山　泰幸（関西学院大学）
コメンテーター：多々納裕一（防災研究所）
コメンテーター：上原麻有子（文学研究科）
3月23日　災害と思想 Living with disasters
発表者：Yoann Moreau（EHESS-CNRS）
自然災害がもたらす思想的転換：大地が揺れると思想も変わる
発表者：加藤泰史（椙山女学園大学）

ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論に向けて　班長　香西豊子

研究期間　2021年4月～2024年3月（3年目）

研究実施状況

2023年度は，岩波書店から出版予定である『疫病と人文学 ― 終わらせる力に抗い，傷を書きとめる』（仮）に向けて，ほぼすべての執筆予定者の原稿案を検討した。同時代的な研究の場合は，歴史的背景から論じるような調整をしたり，歴史研究は同時代的観点を導入するなど，全体のバランスを検討することができた。

研究班員

所内：藤原辰史，石井美保，直野章子，瀬戸口明久，小関隆，岡田暁生，小堀聡，KNAUDT，Till，酒井朋子
学内：粂田昌宏（生命科学研究科）
学外：香西豊子（佛教大学歴史学部），東昇（京都府立大学文学部），池田さなえ（京都府立大学文学部），リュウシュ・マルクス（龍谷大学世界仏教文化研究センター），新井卓

研究実施内容

2023年
4月24日　論集に関わる話題提供
発表者：香西豊子（佛教大学）
5月22日　汚穢，伝染，汚染 ― 今日的アプローチの模索，および生活現場における若干の事例考察　発表者：酒井朋子
6月5日　原稿検討会
発表者：香西豊子（佛教大学）
発表者：藤本大士（ハイデルベルク大学）
10月23日　コロナ禍が見せた世界の成り立ちを忘れない ― ケアを担う女として
発表者：直野章子
11月20日　石鹸と手洗いの社会史
発表者：岩島　史（経済学研究科）
12月28日　近世後期天草の疱瘡体験 ― 流行病が村や個人にもたらしたもの
発表者：東　昇（京都府立大学）
「副反応」と「後遺症」／「死者」と向きあう　発表者：香西豊子（佛教大学）
2024年
1月22日　現代日本人の政治・科学への「信頼」

に関する歴史学からの試論 ― Covid-19 の「五類化」に伴う社交的言説の分析から
発表者：池田さなえ（京都府立大学）
後遺症について
発表者：香西豊子（佛教大学）

2月5日　日本資本主義のなかの「流行性感冒」
発表者：小堀　聡
監視と計算 ― COVID-19 における科学技術　発表者：瀬戸口明久

3月4日　誰が彼らを殺すのか：怒りと認識の十九世紀統計史　発表者：岡澤康浩

3月13日　ウイルスの変容，ヒトの変容　～いたちごっこと相関～
発表者：粂田昌宏（生命科学研究科）
パンデミックと家族と島国：分断の世紀にアーティストでいること
発表者：新井　卓（アーティスト）

東方ユーラシア馬文化の研究　班長　諫早直人

研究期間　2021 年 4 月～2024 年 3 月（3 年目）

研究実施状況

最終年度にあたる 2023 年度は，対面とオンラインとの併用により，人文科学研究所分館を会場として，計 6 回の研究会を実施した。まず，昨年度末に刊行した書籍『馬・車馬・騎馬の考古学 ― 東方ユーラシアの馬文化』の合評会を実施した。また，定例の研究会では，主に日本考古学の視点から「日本古代牧の立地と構造」「欧米における騎馬民族征服王朝説の展開」「古代の蝦夷がウマを飼ったという記録は何を示すか」の諸問題を議論した。さらに，文献史学の視点から「新羅人と馬」について，言語学の視点から「馬に関わる言葉と文字」についての研究報告がなされ，それぞれ活発な討論がおこなわれた。年度末の 3 月には，本研究班の成果を中国の研究者に向けて発信する目的で，蘭州大学において対面の国際シンポジウム「馬・車馬・騎馬的考古学：欧亜大陸東部的馬文化」を開催し，中国・韓国・日本の研究者による計 13 本の研究発表をふまえて，討論と意見交換をおこなった。

研究班員

所内：向井佑介，古松崇志，野原将揮，藤井律之

学内：吉井秀夫（文学研究科），坂川幸祐（総合博物館），大谷育恵（白眉センター），大平理紗

学外：諫早直人（京都府立大学文学部），中村大介（埼玉大学教養学部），Joseph Ryan（岡山大学文明動態学研究所），井上直樹（京都府立大学文学部），石谷慎（京都府立大学文学部），伍雅涵（京都府立大学文学部），森下章司（大手前大学文学部），佐藤健太郎（関西大学博物館），河野保博（立教大学文学部），篠原徹（国立歴史民俗博物館），青柳泰介（奈良県立橿原考古学研究所付属博物館），片山健太郎（埼玉県立歴史と民俗の博物館），妹尾裕介（滋賀県立琵琶湖博物館），岡村秀典（黒川古文化研究所），菊地大樹（蘭州大学歴史文化学院），王含元（北京大学考古文博学院），姜伊（四川大学歴史文化学院）

研究実施内容

4月7日　『馬・車馬・騎馬の考古学 ― 東方ユーラシアの馬文化』合評会 書評『馬・車馬・騎馬の考古学 ― 東方ユーラシアの馬文化』
発表者：森下章司（大手前大学）

2023 年

4月21日　馬の生産と管理 日本古代牧の立地と構造：馬生産・飼育・管理・移送・調教の空間　発表者：山中　章（三重大学名誉教授）

5月19日　騎馬民族征服王朝説の展望 欧米における騎馬民族征服王朝説の展開
発表者：ライアン・ジョセフ（岡山大学）

6月2日　古代朝鮮半島の馬文化 新羅人と馬：文献史料を中心に　発表者：田中俊明（滋賀県立大学名誉教授）

6月16日　古代蝦夷の馬文化 古代の蝦夷がウマを飼ったという記録は何を示すか
発表者：松本建速（東海大学）

7月21日　馬に関わる言語と文物 馬に関わる言葉と文字　発表者：野原将揮
チベット・ビルマ語の馬
コメンテーター：池田　巧
朝鮮半島南西部地域と日本列島（河内と北部九州）の馬飼育適合性に対する動物考古学的アプローチ
発表者：金春昊（エクセター大学）
馬具と王権：新羅の玉虫装飾馬具を中心に
発表者：王映雪（ハーバード大学）

2024年

3月16～17日　“馬・車馬・騎馬的考古学：欧亜大陸東部的馬文化”国際学術研討会 草原地帯馬的利用：戦車和騎乗的地域交流
発表者：中村大介（埼玉大学）
馬鐙的出現与騎馬文化的東伝
発表者：諫早直人（京都府立大学）
戦国至北朝騎乗鞍具的発展演変
発表者：李雲河（北京大学）
中国古代重装騎兵的発展
発表者：岡村秀典（黒川古文化研究所）
従車輞制造技術視角重審商周馬車的出現及変革
発表者：張万輝（清華大学）
従帯飾板看匈奴的当地及其影響
発表者：韓真聖（慶熙大学校）
甘粛馬家塬出土戦国西戎車輞的発現与復原　発表者：謝焱（甘粛省文物考古研究所）
中国古代馬匹役使的新認識：以甘粛石家墓地五号車馬坑為例
発表者：李悦（西北大学）
中国騎馬発展的三階段：3世紀，5世紀，7世紀的変革
発表者：向井佑介
中国古代牧場的風景
発表者：菊地大樹（蘭州大学）
火山噴発埋没的養馬相関遺址群的発掘調査：位于日本国群馬県榛名山麓的遺址　発表者：右島和夫（群馬県立歴史博物館）

人物で見る第二次世界大戦　班長　林田敏子

研究期間　2022年4月～2025年3月（2年目）

研究実施状況

令和5年度は，台風で中止となった1回を除いて6回の例会を開催した。そのうち2回はゲストを報告者に招き，4月例会では近年のアジア・太平洋戦争の研究動向について，11月例会では戦後日本・地域占領研究について，専門家の知見を提供してもらった。班員による報告は，7月例会が「戦後日本の中国研究者による日中戦争研究と中国の日中戦争認識」，10月例会が「戦争の記憶と社会 ― 独ソ戦期のソ連における従軍記者の活動」，1月例会が「証言はフランス文学に何をもたらしたか」，3月例会が「第二次世界大戦は（非）亡命作曲家にどのような影響を与えたか」をテーマとした。本研究班の設立趣旨に沿った研究発表が増えたことに伴って，例会における討論は明らかに充実の度を増してきている。

研究班員

所内：小関隆，岡田暁生，藤原辰史，瀬戸口明久，福家崇洋

学内：小野寺史郎（人間・環境学研究科），駒込武（教育学研究科），小山哲（文学研究科），金澤周作（文学研究科）

学外：林田敏子（奈良女子大学研究院生活環境科学系），中野耕太郎（東京大学総合文化研究科），小野容照（九州大学人文科学研究院歴史学部門），浅井佑太（お茶の水女子大学 基幹研究院人文科学系），橋本伸也（関西学院大学文学部），久保昭博（関西学院大学文学部），立石洋子（同志社大学グローバル地域文化学部）

研究実施内容

2023年

4月15日　最近のアジア・太平洋戦争史関連の研究動向

発表者：古川隆久（日本大学）

7月22日　戦後日本の中国研究者による日中戦争研究と中国の日中戦争認識
発表者：小野寺史郎
（人間・環境学研究科）

10月7日　戦争の記憶と社会 ― 独ソ戦期のソ連における従軍記者の活動
発表者：立石洋子（同志社大学）

11月25日　戦後日本・地域占領研究を読み直す
発表者：長志珠絵（神戸大学）

2024年

1月20日　証言はフランス文学に何をもたらしたか　発表者：久保昭博（関西学院大学）

3月2日　第二次世界大戦は（非）亡命作曲家にどのような影響を与えたか
発表者：浅井佑太
（お茶の水女子大学）

インドにおける「循環的存在論」の形成 ― 祭祀思想から哲学への発展を中心に　　班長　手嶋英貴

研究期間　2022年4月～2025年3月（2年目）

研究実施状況

令和5年度は12回の定例研究会を行い，研究計画どおり各回を，古代インド文献『ヴァードゥーラ・シュラウタスートラ』新月満月祭章講読の部，および班員等による個人報告の部の2部構成で実施した。講読の部では，同章全体の3/4程度まで読み終え，最終成果の一つとして見込む校訂テキストと和訳の公表に向けた準備を進めた。個人報告の部では，本研究班の課題に関連する多様な研究を共有し，最終成果として予定している研究論集の下地作りを進めた。なお，9月の定例研究会ではユダヤ思想の専門家（市川裕・東大名誉教授）を招聘講師として，領域横断的な討議を深めた。全回を対面・オンライン併用型で開催し，参加者は平均して25名ほどである。さらに研究会の録画映像をYouTubeで限定公開しており，各回の平均視聴数は15回ほどであった。こうした録画の視聴は，開催日時に都合のつかない研究者にとって研究会に参画しつづける有用な機会となっており，諸方面から好評を得ている。

研究班員

所内：岩城卓二

学内：天野恭子（京都大学大学院文学研究科），横地優子（京都大学大学院文学研究科），虫賀幹華（京都大学白眉センター）

学外：手嶋英貴（龍谷大学法学部），高島淳（東京外国語大学），中村史（小樽商科大学商学部），梶原三恵子（東京大学大学院人文社会系研究科），堂山英次郎（大阪大学大学院人文学研究科），西村直子（東北大学大学院文学研究科），川村悠人（広島大学大学院人間社会科学研究科），尾園絢一（広島大学大学院人間社会科学研究科），大島智靖（東京大学死生学・応用倫理センター），髙橋健二（東京大学大学院人文社会系研究科），山城貢司（東京大学先端科学技術研究センター），塚越柚季（東京大学大学院人文社会系研究科），眞鍋智裕（北海道大学大学院文学研究院），伊澤敦子（東京大学文学部），菊谷竜太（高野山大学文学部），矢野道雄（京都産業大学），井田克征（中央大学総合政策学部），大木舞（日本学術振興会），吉水清孝（財団法人東洋文庫）

研究実施内容

2023年

4月24日　第10回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.2.33-2.4.3.21（新月満月祭本祭日・献供用匙類の準備）
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
南インド・トラヴァンコール王室の灌頂儀礼：儀軌原典と試訳，解釈上の問題点　発表者：手嶋英貴（龍谷大学）

5月8日　第11回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.2.33-2.4.3.21 関連ブラーフマナ文献
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
カリ期における法的子ども観
発表者：谷口力光
（東京大学大学院博士課程，日本学術振興会）

6月5日　第12回研究会 南インド・ケーララ州における Puṇyāha 儀礼とその起源
発表者：梶原三恵子・手嶋英貴
（龍谷大学・東京大学）
グリヒヤスートラとグリヒヤ補遺文献における Puṇyāha 概観
発表者：梶原三恵子
（東京大学大学院）
ケーララ州のジャイミニーヤ派（サーマヴェーダ）に伝えられる Puṇyāha 儀礼の概観
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）

7月3日　第13回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.3.22-37（新月満月祭本祭日・祭主の妻に関する儀礼）
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
ジャータカの盗賊譚
発表者：中村　史（小樽商科大学）

8月28日　第14回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.3.22-37 関連ブラーフマナ文献　発表者：手嶋英貴（龍谷大学）

9月4日　第15回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.3.38-49（新月満月祭本祭日準備儀礼）
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
ユダヤ教の聖俗分節思想から存在の分節化としての法思想へ
発表者：市川　裕（東京大学）

10月30日　第16回研究会 メーダーティティによる『マヌ法典』第一章の解釈
発表者：吉水清孝
（公益財団法人東洋文庫）

11月27日　第17回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.3.50-2.4.4.2」（新月満月祭本祭日・準備儀礼）
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
頭や眼を覆うことと秘義学習
発表者：梶原三恵子
（東京大学大学院）

12月25日　第18回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.3.50-2.4.4.1 関連ブラーフマナ文献 発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
河口慧海関係資料の系統と分類：国内研究機関が保有するチベット関係資料の積極的活用に向けて
発表者：菊谷竜太（高野山大学）

2024年

1月29日　第19回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.4.2-23（新月満月祭本祭日準備儀礼：パリディ，祭匙類の置き定めほか）発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
Buddhacarita における yad 節
発表者：張倩倩（福州外語外貿学院）

2月16日　第20回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.4.2-23 関連ブラーフマナ文献　発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
ヴェーダの規範に従う「善人」の輪廻について：マドゥスーダナの著作 Gūḍhārthadīpikā に見られる事例から
発表者：眞鍋智裕
（北海道大学大学院）

3月26日　第21回研究会 Vādhūla-Śrauta-Sūtra 2.4.4.24-34（新月満月祭本祭日・準備儀礼）
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
聖仙たちの言語
発表者：川村悠人（広島大学大学院）

3月26日　公開シンポジウム「『マハーバーラタ』研究の最前線：伝承の形成と物語の展開」（ブラフマニズムとヒンドゥイズム第10回シンポジウム）『マハーバーラタ』の口頭伝承的特徴について
発表者：髙橋健二（東京大学大学院）
『マハーバーラタ』に描かれた王権儀礼の特徴
発表者：手嶋英貴（龍谷大学）
古代インド叙事詩の神器戦における記憶と呪句の役割
発表者：川村悠人（広島大学大学院）
ヴィシュヴァルーパ物語の伝承と変容
発表者：堂山英次郎
（大阪大学大学院）

指定コメント

コメンテーター：水野善文

（東京外国語大学大学院）

「語りえぬもの」を語る行為とその表現に関する学際的研究 ― 禅の言葉と翻訳を中心課題として

班長　何　燕生

研究期間　2022 年 4 月～2025 年 3 月（2 年目）

研究実施状況

2023 年度は基本的に年度当初の計画に沿って研究活動を実施した。研究会計 4 回，対面とオンラインを併合する形で，研究所本館大会議室を会場に実施した。

2022 年度と同様，午前は『弁道話』の会読，担当者は班長の何燕生，班員参加者は質疑応答という形で行われた。午後の研究成果報告会は班員による個別の研究成果が発表された。

研究会は司会とコメンテータを含め，基本的に班員が中心に行われたが，専門分野を考慮し，研究班顧問の方に依頼することもあった。海外の班員にも司会やコメンテータなどを担当してもらった。なるべく「全員参加」を目指して実施した。

毎回の研究会は録画をし，都合により参加できない班員や時差の関係で参加できない海外の班員に URL を知らせ，情報の共有につとめた。

また，年度当初の実施計画である日本宗教学会学術大会でのパネル発表については，計画通り実施した。詳細は次のとおりである。日時：2023 年 9 月 10 日，会場：東京外国語大学，パネルのテーマ：「日本における禅受容の再検討 ― 中世から近世へ ―」（代表者：何燕生）。発表者およびテーマ：「『弁道話』から読み取れるもの ― 初期道元の課題 ―」（班長・何燕生），「円爾の禅密諸典籍の利用と鎌倉中期の禅の展開」（班員・和田有希子），「『密参禅』の由来と展開の再検討 ― 下語の使用を手がかりに ―」（班員・ディティエ・ダヴァン），「看話禅の展開 ― 大慧宗杲と白隠慧鶴を中心として ―」（班員・柳幹康），コメンテータ（研究班顧問・末木文美士），司会（班長・何燕生）。

さらに，年末に実施した第九回の研究会では「特別企画 ― 禅研究の現在と未来」と題し，博士課程に在学している若手研究者に研究成果を報告してもらった。次世代育成にも配慮した。

研究班員

所内：WITTERN, Christian，古勝隆一

学内：上原麻有子（大学院文学研究科），出口康夫（大学院文学研究科），中村慎之介（京都大学文学部），一色大悟（京都大学学術研究展開センター）

学外：何燕生（郡山女子大学），頼住光子（東京大学大学院人文社会系），斎藤智寛（東北大学大学院文学研究科），柳幹康（東京大学東洋学研究所），浅見洋二（大阪大学大学院文学研究科），土屋太祐（新潟大学経済学部），余新星（花園大学文学部），小川隆（駒澤大学総合教育研究部），石井清純（駒澤大学仏教学部），角田泰隆（駒澤大学仏教学部），安藤礼二（多摩美術大学美術学部），飯島孝良（花園大学国際禅学研究所），重田みち（京都芸術大学通信教育学部），水野友晴（関西大学文学部），和田有希子（早稲田大学），小川太龍（花園大学），早川敦（東北福祉大学），ディティエ・ダヴァン（国文学研究資料館），李家明（国際日本文化研究センター大学院），周裕鍇（四川大学），王頌（北京大学），呉根友（武漢大学），龔雋（中山大学），馮国棟（浙江大学），李建欣（中国社会科学院），江静（浙江工商大学），蔣海怒（浙江理工大学），ジャン＝ノエル・ロベール（コレジュ・ド・フランス），ベルナールフォール（コロンビア大学），呉疆（アリゾナ大学），ラジ・シュタイネック（チューリッヒ大学），ゲレオン・コブフ（ルター大学），スザナ・クボウチャコバ（マサリク大学），林佩瑩（政治大学），肖琨（暨南大学），李瑄（四川大学），張超（フランス国立高等研究実践学院），沈庭（武漢大学），今西智久（株式会社法蔵館）

研究実施内容

2023 年

4 月29日　第六回研究会『弁道話』の会読

発表者：何燕生（班長）

『正法眼蔵』の編集ならびに『弁道話』成立に関する諸問題について

発表者：角田泰隆（駒澤大学）

コメンテーター：石井清純（駒澤大学）

司会：古勝隆一

Self-as-Anything：道元における自己・世界・他者

発表者：出口康夫（京都大学）

コメンテーター：Raji Steineck（チューリッヒ大学）

司会：何燕生（班長）

6 月24日　第七回研究会『弁道話』の会読

発表者：何燕生（班長）

『宗鏡録』の思想と展開 ― 仏の自覚と実践　発表者：柳　幹康（東京大学）

コメンテーター：和田有希子（早稲田大学）

司会：赤松明彦（京都大学）

『正法眼蔵』における『法華経』の観心釈と『華厳経』利用

発表者：石井公成（駒澤大学）

コメンテーター：早川　敦（東北福祉大学）

司会：赤松明彦（京都大学）

10月28日　第八回研究会『弁道話』の会読

発表者：何燕生（班長）

古勝亮『中国初期前思想の形成』の刊行によせて ― 第 5 章「薬山系禅師の自己認識とその背景」を中心に ―

発表者：齋藤智寛（東北大学）

コメンテーター：程正（駒澤大学）

司会：末木文美士（国際日本文化研究センター）

道元の「一心」について

発表者：早川敦（東北福祉大学）

コメンテーター：何燕生（班長）

司会：水野友晴（関西大学）

12月23日　第九回研究会『弁道話』の会読

発表者：何燕生（班長）

法眼宗から雲門宗へ：宋代禅の始まりと「活句」の思想

発表者：土屋太祐（新潟大学）

コメンテーター：石井修道（駒澤大学）

司会：古勝隆一

特別企画「禅研究の現在と未来」

1）2023 年度の禅研究を振り返って

発表者：何燕生（班長）

2）発心を中心とした道元思想の研究

発表者：米野大雄（早稲田大学大学院）

道元における自然観　発表者：李家明（国際日本文化研究センター大学院）

司会：何燕生（班長）

中日の近代哲学・思想の交差とその実践

班長　廖　欽彬

研究期間　2023 年 4 月～2026 年 3 月（1 年目）

研究実施状況

準備会もあわせると，全 6 回の研究会を実施した。準備会では廖班長より研究班の趣旨説明と研究班員の自己紹介があった。第 1 回から第 5 回まで毎回 2～4 名の報告者と各司会を立てて研究班を実施し，近代日中哲学交差の総合テーマのもとで，班員及びゲストが自らの専門分野にひきつけて報告を行った。分野は哲学，政治，思想，芸術，宗教など多岐にわたるが，いずれも東アジア哲学を考察するうえで意義ある報告となった。報告は基本的に対面で実施し，参加者はオンライン・対面のハイブリッドで参加した。テーマに相応しく，日本，中国，台湾で活躍する哲学・思想の研究者に報告を担当してもらい，その後の意見交換も活発なやりとりがあった。本年度は研究報告を主体に運営を実施し，班員相互のテーマ認識や理解を深めることができたため，次年度は成果発表に向けて動ければと考えている。

研究班員

所内：福家崇洋，石川禎浩

学内：出口康夫（文学研究科），上原麻有子（文学研究科），カクミンソク（人間・環境学研究科），張潔（文学研究科），安部浩（人間・環境学研究科）

学外：廖欽彬（中山大学哲学系），鈴木将久（東京大学大学院人文社会系研究科），張政遠（東京大学大学院総合文化研究科），植村和秀（京都産業大学法学部），伊東貴之（総合研究大学院大学文化科学研究科），蘇文博（総合研究大学院大学文化科学研究科），王頌（北京大学哲学系宗教学系），唐文明（清華大学哲学系），張偉（中山大学哲学系），盛福剛（武漢大学哲学学院）

研究実施内容

2023年

8月2日　第1回共同研究会「国体に醇化された思想を受容する」という主張 ― 大東文化協会から『国体の本義』への系譜
発表者：植村和秀（京都産業大学）
司会：福家崇洋（京都大学）
東アジアにおける哲学の展開と相互交流　発表者：藤田正勝（京都大学）
司会：廖欽彬（中山大学）
自己否定する主体，東アジア哲学の挑戦 ― 田辺元，牟宗三，朴鍾鴻
発表者：カクミンソク（京都大学）
司会：張政遠（東京大学）
五四運動前後におけるマルクス思想の受容と伝播 ― 李大釗，陳独秀の活動を中心に　発表者：蘇文博（総合研究大学院大学）
司会：廖欽彬（中山大学）

10月9日　第2回共同研究会 二十世紀中国はなぜ平和的な改良の道を歩むことができなかったのか？ ― 現代を背景にした「革命」と「改良」に対する歴史評価の問題もかねて
発表者：楊奎松（北京大学）
司会：廖欽彬（中山大学）
現代中国の政治的言説における「人民」について
発表者：王小林（京都大学）
司会：福家崇洋（京都大学）

2024年

1月19日　第3回共同研究会 美育をもって宗教に取って代わる ― 伝統的な士人の現代的転向　発表者：渠敬東（北京大学）
司会：廖欽彬（中山大学）
清代碑学の芸術的実践とその近現代書風への影響
発表者：朱天曙（北京語言大学）
司会：呉孟晋（京都大学）

1月30日　第4回共同研究会 清末から「五四」まで ― 中国現代思想の急進化過程の反省　発表者：唐文明（清華大学）
司会：福家崇洋（京都大学）
儒教復興と儒学解放の歴史的パラドックス ― 革命派の章太炎とマルクス主義歴史家の翦伯贊を手掛かりに
発表者：劉紀蕙（陽明交通大学）
司会：石川禎浩（京都大学）
現象学の儒学的転向と儒学現象学
発表者：朱剛（中山大学）
司会：亀井大輔（立命館大学）

2月12日　第5回共同研究会 なぜ「美」や「哲学」は問題になるのであろうか？ ― 王国維の場合
発表者：銭鴎（同志社大学）
司会：福家崇洋（京都大学）
主体・環境・社会 ― 三木清の残した思想の可能性
発表者：ロマリク・ジャネル（京都大学）
司会：カクミンソク（京都大学）

中国生活文化の思想史　　班長　名和　敏光

研究期間　2023年4月～2026年3月（1年目）

研究実施状況

令和5年度は計10回の研究会にて計22題の研究発表もしくは講演を実施し，8回の読書会にて虎溪山漢簡「食方」の訳注検討，また茶に関する研究発表会にあわせて重要文化財の日本近代茶室遺構を含

む京都大学清風荘の見学会を開催した。研究発表では飲食文化を軸とし，中でも読書会で扱う「食方」とも関連した中国古代における穀物の収穫・調製・調理の実相のほか，喫茶文化，また食と医の関連，薬物として服食される植物をめぐる文化など，大学院生を含む多分野の研究者による成果が披露された。とくに従来知られるとおり食と医（薬）は密接に連関し強く補完し合う研究領域であるが，令和５年度の研究活動により，食材と薬材，その調製・調理と調剤の工程に関する具体的な事例からそのことを再確認することができた。ほか，中国古代の贈答文化，占い，楽器・音楽など，多彩なテーマによる発表と討議により，各分野で個別に蓄積されてきた生活文化研究の成果が幅広い領域の研究者間で共有された。

研究班員

所内：髙井たかね，池田巧，野原将揮，平岡隆二

学内：成高雅（CHENG Gaoya）（国際高等教育院），西嶋佑太郎（人間・環境学研究科）

学外：名和敏光（山梨県立大学国際政策学部），伊藤裕水（山口大学人文学部），小倉聖（東京学芸大学次世代教育研究センター），末永高康（広島大学人間社会科学研究科（文）），塚本明日香（岐阜大学地域協学センター），西山尚志（埼玉大学教養学部），平澤歩（東京大学大学院人文社会系研究科），籔敏裕（岩手大学教育学部），劉青（LIU Qing）（弘前大学人間社会科学部），菊池孝太朗（大阪大学大学院文学研究科），池内早紀子（大阪府立大学大学院人間社会システム研究科），愛新覚羅闔和（KAIHE）（立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所），大形徹（立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所），川浩二（立命館大学言語教育センター），柿沼陽平（早稲田大学文学学術院），椛島雅弘（和歌山高専総合教育科），小山瞳（関西大学），島山奈緒子（立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所），清水浩子（大正大学），髙橋あやの（大東文化大学東洋研究所），武田時昌（関西医療大学），奈良場勝（國學院大學栃木短期大学），深澤瞳（大妻女子大学），水口幹記（立命館大学文学部），宮崎順子（関西大学），宮島和也（成蹊大学），宮本紗代（立命館大学），六車楓（立命館大学），森和（杏林大学外国語学部），山崎（喜多）藍（青山学院大学文学部），豊田裕章（国際日本文化研究センター），永塚憲治（公益財団法人研医会），村上陽子（防災専門図書館），鄭宰相（JUNG Jaesang）（円光デジタル大学），程少軒（CHENG Shaoxuan）（南京大学文学院），廣瀬薫雄（復旦大学出土文献与古文字研究中心），高潔（GAO Jie）（南京大学文学院），平地治美（和光鍼灸治療院・漢方薬局）

研究実施内容

2023 年

４月８日　共同研究趣旨説明

発表者：名和敏光（山梨県立大学）

贈り物の中国古代史 ― 秦漢時代の贈与と賄賂 ―

発表者：柿沼陽平（早稲田大学）

４月９日　第１回「食方」読書会 史料の概説および今後の進め方について

発表者：名和敏光（山梨県立大学）

５月６日　月の桂

発表者：池内早紀子（大阪府立大学）

天回医簡からわかる漢代の医学

発表者：猪飼祥夫（猪飼鍼灸）

発表者：島山奈緒子（立命館大学）

５月７日　第２回「食方」読書会「食方」訳注報告１　発表者：森　和（杏林大学）

６月３日　李建民氏講演会（共同研究「仏教天文学説の起源と変容」班との合同研究会）王国維与令人眷念之年 .....（中国語，通訳あり）　発表者：李建民（中央研究院歴史語言研究所）

白鳥庫吉の学説をめぐる日本学術界の反応と王国維「二重証拠法」の形成

発表者：西山尚志（埼玉大学）

座談会（中国語，通訳あり）

司会：髙井たかね（人文科学研究所）

6月4日　第3回「食方」読書会「食方」訳注報告2　発表者：森　和（杏林大学）
7月8日　収穫から調理まで ― 画像石と現地調査から ―
発表者：村上陽子（防災専門図書館）
7月9日　第4回「食方」読書会「食方」訳注報告3
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
8月5日　宋代譜録にみる植物の変異に対する格物思想について
発表者：久保輝幸（横浜商科大学）
酒は百薬の長 ― 医食同源の諸相
発表者：真柳　誠（茨城大学）
8月6日　第5回「食方」読書会「食方」訳注報告4
発表者：名和敏光（山梨県立大学）
9月30日　「冷え」：なぜ日本人が悩むのか？ ―「こころ」と「からだ」の繋がり
発表者：渡邉真弓（関西医療大学）
肩こりの臨床　発表者：平地治美（和光鍼灸治療院）
11月5日　共同プロジェクト紹介「薬用作物栽培における課題・価値の再発見と地域社会での共有 ― 生産現場の当事者的・総合的理解を基盤に ―」
発表者：西村陽菜（文学研究科）
龔廷賢『壽世保元』「藥性歌括」に関する考察　発表者：西村陽菜（文学研究科）
猫と本草　発表者：小山瞳（関西大学）
12月2日　共同シンポジウム「東アジア知識人の生活文化における琴学」
中国先秦時代における「楽」の実態 ― 出土楽器の検討を中心に ―
発表者：長澤文彩（東京芸術大学大学院）
諸葛孔明弾琴考 ― 虚実のはざまの音楽　発表者：早川太基（神戸大学）
弾琴私見と琴演奏（西麓堂琴統）
発表者：伏見无家（靖）（東洋琴学研究所）
音楽的コスモロジーの調和数理と AI 打譜における琴音の合成について
発表者：大塚一輝（(公財) 未来工学研究所）
総合討論
司会：髙井たかね（人文科学研究所）
12月3日　第6回「食方」読書会「食方」訳注報告5　発表者：伊藤裕水（山口大学）

2024年
2月2日　清風荘見学会 解説「清風荘について」
発表者：奥田昭彦（京都大学清風荘）
2月3日　宋代点茶における芽茶の毛（毛茸）による白色の泡の茶と日本的展開 ― 茶筅の起源の問題を含めて ―
発表者：豊田裕章（国際日本文化研究センター）
陸羽『茶経』に見える思想について
発表者：岩間眞知子（静岡県ふじのくに茶の都ミュージアム）
2月4日　第7回「食方」読書会「食方」訳注報告6　発表者：伊藤裕水（山口大学）
3月9日　中国兵学思想史における鬼神・廟の認識と位置　発表者：椛島雅弘（和歌山工業高等専門学校）
大宰府と占い　発表者：奈良場勝（國學院大學栃木短期大学）
3月10日　第8回「食方」読書会「食方」訳注報告7
発表者：小倉　聖（大東文化大学）

歴史的メディア認識論：テレビ史におけるメディア論とテクノサイエンスの交錯

班長　ショーン・ハンスン

研究期間　2023年4月～2024年3月（1年目）

研究実施状況

ショーン班は活動の中心として，日本とイギリスを結んでオンライン読書会を合計7回行い，メディア論・テレビ論の重要文献を購読した。また，これに加えて，対面でのイベントとして，6月には日英バイリンガルでのワークショップ「Techniques of

the Shichōsha: On the Technoscientific Formation of Cultural Subjects ／〈視聴者〉の系譜：ある文化的主体の科学技術的形成」を，12 月には「テレビジョン・アーカイブスを再想像する：科学技術とメディア論から考える未来」の二つの公開イベントを行った。また，2 月にはクローズドでの研究報告会を開催した。

研究班員

所内：岡澤康浩

学外：HSIUNG, Hansun（Durham University（UK）），河村賢（大阪大学社会技術共創研究センター），河西棟馬（東京工業大学リベラルアーツ研究教育院），松山秀明（関西大学社会学部），永田大輔（明星大学社会学部），大尾侑子（東京経済大学コミュニケーション学部），小川豊武（昭和女子大学人間社会学部），BRONSON, Adam（Durham University（UK））

研究実施内容

2023 年

4 月27日　読書会 飯田豊（2016）『テレビが見世物だったころ：初期テレビジョンの考古学』青弓社
発表者：新藤雄介（福島大学）

5 月30日　読書会 Doron Galili, 2020, Seeing by Electricity: The Emergence of Television, 1878–1939,（Duke University Press）.
発表者：河村　賢（大阪大学）

7 月 6 日　読書会 吉見俊哉『「声」の資本主義』（河出文庫）
発表者：岡澤康浩（人文科学研究所）

9 月 5 日　読書会 Henning Schmidgen, 2022, Horn, or The Counterside of Media（Duke University Press）
発表者：HSIUNG, Hansun（Durham University）

10月24日　読書会 Lorenz Engell. The Switch Image: Television Philosophy.（Bloomsbury Publishing, 2022）
発表者：岡澤康浩（人文科学研究所）

12月 4 日　テレビジョン・アーカイブスを再想像する
司会：岡澤康浩（人文科学研究所）
〈テレビジョン〉的なものの複数性に開かれたアーカイブズへ
発表者：HSIUNG, Hansun（Durham University）
NHK アーカイブスの保存と利活用
発表者：前川秀樹（NHK アーカイブス）
発表者：山岸清之進（NHK アーカイブス）
放送関連の歴史資料の現状～NHK 文研所蔵の文書資料を中心に～
発表者：村上聖一（NHK 放送文化研究所）
国立科学博物館のビジュアル系資料の保存と活用
発表者：前島正裕（国立科学博物館）
技術史研究におけるモノ・知識・アーカイブ　コメンテーター：河西棟馬（東京工業大学）
アーカイブとメディア研究を往還する
コメンテーター：近藤和都（大妻女子大学）

12月18日　読書会 丸山友美（2023）『日本の初期テレビドキュメンタリー史』（青弓社）
発表者：岡澤康浩（人文科学研究所）

2024 年

1 月29日　読書会 Susan Murray, 2018, Bright Signals: A History of Color Television,（Duke University Press）
発表者：河村　賢（大阪大学）

2 月12日　研究報告会 All the Sciences Under One Roof: Shimomura Toratarō's War on “Japanese Science”
発表者：岡澤康浩（人文科学研究所）
Reassembling the Written
発表者：HSIUNG, Hansun（Durham University）
コメンテーター：中尾麻伊香

（広島大学）

日韓ビデオアート

発表者：KWON, Eugene

（Yale University/早稲田大学）

Media,（Sound）Technology, and Body

発表者：CHOI, Eun Jeong

（New York University/東京大学）

テロリズムとテレビ

発表者：河村　賢（大阪大学）

人文学研究部

芸術と社会 ― 近代における創造活動の諸相 ―

班長　高階絵里加

研究期間　2020 年 4 月～2024 年 3 月（4 年目）

研究実施状況

4 年計画の第 4 年目となった本年は，計 8 回の研究会を開催した。内容は以下の通りである。「日本画グループ「景聴園」の活動」「日中戦争・国共内戦期の中国モダニズム絵画からみる「個人」と「国家」」「1930-40 年代日本におけるフランス文化の発信とその受容」「スペイン・インフルエンザと美術：忘却の淵から甦ったパンデミック」「竹内栖鳳の前衛性」「東本願寺旧蔵の品々：二度の売り立てを中心に」「明治期正本写出版の復興と衰退」「本願寺西山別院本堂障壁画について」。近現代の日本，東アジア，ヨーロッパにおける芸術活動と社会状況の相互影響，国際的交流，コレクションの生成，メディアと芸術受容の様相等についての報告が行われた。

研究班員

所内：高階絵里加，岡田暁生，小関隆，高木博志，立木康介，福家崇洋，藤原辰史，森本淳生，藤野志織，呉孟晋，金智慧

学外：小川佐和子（北海道大学大学院文学研究院），久保豊（富山大学），多田羅多起子（広島大学大学院人間社会科学研究科／教育学部　造形芸術系コース），イリナ・ホルカ（東京外国語大学），三宅拓也（京都工芸繊維大学デザイン・建築学系），宮下規久朗（神戸大学大学院人文学研究科），池田さなえ（京都府立大学），永井隆則（京都市立芸術大学），花田史彦（大手前大学建築 & 芸術学部），植田憲司（京都経済短期大学），大久保恭子（京都橘大学発達教育学部），國賀由美子（大谷大学文学部），竹内幸絵（同志社大学），河本真理（日本女子大学），久保昭博（関西学院大学），有賀茜（京都府京都文化博物館），植田彩芳子（京都府京都文化博物館），大原由佳子（文化庁文化財第一課），清水智世（京都府京都文化博物館），中野慎之（文化庁文化財第一課），藤本真名美（和歌山県立近代美術館），森光彦（京都市京セラ美術館），山口真有香（滋賀県立美術館），山田真規子（目黒区美術館），林洋子（兵庫県立美術館），郷司泰仁（香雪美術館），小嶋ひろみ（（公益財団法人）両備文化振興財団　夢二郷土美術館），実方葉子（泉屋博古館），柴田就平（笠岡市竹喬美術館），鈴木千栄子（毎日放送），孝岡睦子（大原美術館），高階秀爾（大原美術館），竹嶋康平（泉屋博古館），古田理子（高島屋史料館），松原史（北野天満宮北野文化研究所），VOLK, Alicia（アリサ・ヴォルク）（University of Maryland（メリーランド大学）），藤井俊之

研究実施内容

2023 年

4 月15日　日本画グループ「景聴園」の活動
発表者：古田理子（高島屋史料館）

5 月13日　日中戦争・国共内戦期の中国モダニズム絵画からみる「個人」と「国家」
発表者：呉孟晋

6 月10日　1930-40 年代日本におけるフランス文化の発信とその受容
発表者：藤野志織

7 月29日　スペイン・インフルエンザと美術：忘却の淵から甦ったパンデミック
発表者：河本真理（日本女子大学）

10月28日　竹内栖鳳の前衛性　発表者：森　光彦（京都市京セラ美術館）

11月12日　東本願寺旧蔵の品々：二度の売り立て

を中心に

発表者：國賀由美子（大谷大学）

12月23日　明治期正本写出版の復興と衰退

発表者：金智慧

2024年

3月9日　本願寺西山別院本堂障壁画について

発表者：大原由佳子（文化庁）

ポスト=ヒューマン時代の起点としてのフランス象徴主義　　班長　森本　淳生

研究期間　2021年4月～2026年3月（3年目）

研究実施状況

令和5年度は研究報告会と訳読会を計11回開催した。報告会では令和4年度にひきつづき，メンバーがそれぞれの研究テーマについて発表し知見の共有に努めた。具体的には，モレアス，バンヴィル，ユゴー，ヴァレリー，ロラン，ドビュッシー，リラダン，ローデンバックなどの作家・音楽家を考察の中心に据え，詩法・小説・音楽・メディアの観点から象徴主義を分析した。あわせて，人文研アカデミーの枠内でシンポジウム「催眠とアンドロイド ― ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』をめぐるふたつの会話」を開催し，『未来のイヴ』を文学のみならず精神医学やロボットの哲学の観点から読み直し，社会還元に努めるとともに，人文研招聘のクローディ・ベルナールによる講演会も実施した。訳読会では，令和4年度に終了したギルの詩集『至善の生成（Le meilleur devenir)』の翻訳・註解の原稿を『人文学報』に投稿し，初校の校正を終えている。同書はフランスでも註解がほとんど存在せず，翻訳されるのも（英訳等も含め）世界初の試みである。訳読会はその後，レニエの『古のロマネスク詩集』に移り，順調に翻訳・註解が進んでいる。企画している象徴主義に関する「読む事典」については「ヴァレリー」の項目を完成させた。これを見本として，令和6年度以降各項目の執筆を加速化させたい。

研究班員

所内：森本淳生，菅原百合絵，藤野志織，藤貫裕

学内：村上祐二（文学研究科），鳥山定嗣（文学研究科），中筋朋（人間･環境学研究科），上田泰史（人間･環境学研究科）

学外：合田陽祐（山形大学社会文化システム研究科），西村友樹雄（一橋大学言語社会研究科），山田広昭（東京大学大学院総合文化研究科），橋本知子（千葉大学大学院人文科学研究院），坂巻康司（東北大学大学院国際文化研究科），中野知律（一橋大学社会学研究科），中畑寛之（神戸大学人文学研究科），岡本夢子（滋賀県立大学人間文化学部），辻昌子（大阪公立大学大学院文学研究科都市文化研究センター），野田農（早稲田大学創造理工学部），福田裕大（近畿大学国際学部），熊谷謙介（神奈川大学国際日本学部），久保昭博（関西学院大学文学部），足立和彦（名城大学法学部法学科），松浦菜美子（関西学院大学文学部），大出敦（慶應義塾大学法学部），立花史（早稲田大学），学谷亮（中京大学教養教育研究院），黒木朋興（上智大学），松村悠子（早稲田大学），海老根龍介（白百合女子大学），原大地（慶應義塾大学），袴田紘代（西洋美術館），フォコニエ，ブリス

研究実施内容

2023年

5月13日　「象徴主義研究」例会（14）1890年代のモレアスにおける象徴主義

発表者：立花　史（早稲田大学）

アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』の翻訳に向けて

発表者：鳥山定嗣（文学研究科）

5月14日　象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）（1）Poèmes anciens et romanesques: Le Fol automne, I-II

発表者：松浦菜美子（関西学院大学）

コメンテーター：森本淳生

7月22日　「象徴主義研究」例会（15）テオドール・ド・バンヴィルと象徴派詩人たち

発表者：松村悠子（早稲田大学）

感覚＝運動サイクル，錯綜体，詩的創造 ― ヴァレリー『コレージュ・ド・

フランス詩学講義』をめぐって
発表者：森本淳生

7月23日　象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）（2）Poèmes anciens et romanesques: Le Fol automne, III–IV
発表者：松浦菜美子（関西学院大学）
コメンテーター：森本淳生

10月7日　「象徴主義研究」例会（16）早咲きの叙情詩人？ヴィクトル・ユゴーの抒情詩の変遷
発表者：中野芳彦（慶應義塾大学）
ジャン・ロランのジャーナリスト作家としてのスタイル　世紀転換期の「噂話の詩学」
発表者：辻　昌子（大阪公立大学）

10月8日　象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）（3）Poèmes anciens et romanesques: Le Fol automne, V
発表者：菅原百合絵
コメンテーター：鳥山定嗣
（文学研究科）

11月25日　「象徴主義研究」例会（17）絶対音楽と象徴主義
発表者：黒木朋興（上智大学）
音楽の修辞的弁論から詩的解釈へ ― ドビュッシー《ボードレールの5つの詩》より Le Balcon における音楽的モチーフの機能 ―　発表者：上田泰史
（人間・環境学研究科）

11月26日　象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）（4）Poèmes anciens et romanesques: Le Fol automne, VI–VII
発表者：菅原百合絵
Poèmes anciens et romanesques: Le Salut à l'étrangère, I
発表者：学谷　亮（中京大学）
コメンテーター：岡本夢子
（滋賀県立大学）

12月16日　催眠とアンドロイド ― ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』をめぐるふたつの会話　司会：森本淳生
コメンテーター：木元　豊
（武蔵大学）
発表者：中筋　朋
（人間・環境学研究科）
発表者：上尾真道（広島市立大学）
発表者：井上卓也
（日本学術振興会特別研究員（PD））
発表者：宇佐美達朗
（京都大学非常勤講師）

2024年

3月2日　「象徴主義研究」例会（18）Essai d'une généalogie de « La Soirée avec Monsieur Teste »　発表者：森本淳生
Le veuf, la sainte et la tentatrice dans les romans de Georges Rodenbach
発表者：Claudie Bernard
（New York University）

3月3日　「象徴主義研究」例会（19）ソワナの復讐 ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』におけるジェンダー闘争
発表者：木元　豊（武蔵大学）
象徴主義 プルーストの美学的触媒
発表者：中野知律（一橋大学）

3月11日　象徴主義文献の翻訳と註釈（アンリ・ド・レニエ『古のロマネスクな詩』）（5）Poèmes anciens et romanesques: Le Salut à l'étrangère, I–II
発表者：学谷　亮（中央大学）
コメンテーター：岡本夢子
（滋賀県立大学）

近代日本の宗教と文化　　班長　高木博志

研究期間　2022年4月～2025年3月（2年目）

研究実施状況

2023年2月刊行の『人文学報』特集：近代京都と文化（10本の論考）に続き，共同研究報告書・高木博志編『近代京都と文化：「伝統」の再構築』（同年8月，思文閣出版，21本論文）として上梓し

た。5月に畝傍山・神武陵・洞部落跡・橿原神宮，9月に茨木キリシタン遺跡，3月に金光教本部のフィールドワークを含め11回の共同研究班を開催した。宗教と文化をめぐって，キリシタン，映画メディア，天皇制，文化財，金光教聖地，教育勅語，仙台の民俗行事，皇太子外遊などの報告を重ねて，共同研究を深めている。共同研究成果については，『近代日本の宗教と文化（仮題）』（思文閣出版，2025年度）に向けて，準備している。

研究班員

所内：高木博志，福家崇洋，金智慧，林潔

学内：谷川穣（文学研究科），田中智子（教育学研究科），木下千花（人間・環境学研究科），駒込武（教育学研究科）

学外：並木誠士（京都工芸繊維大学美術工芸資料館），羽賀祥二（名古屋大学），福島栄寿（大谷大学文学部歴史学科），齊藤紅葉（国士舘大学文学部），幡鎌一弘（天理大学文学部），中川理（神戸女子大学），土田眞紀（同志社大学文学部），今尾文昭（関西大学文学部），北野裕子（龍谷大学経済学部），本康宏史（金沢星稜大学経済学部），北原かな子（青森中央学院大学看護学部），國賀由美子（大谷大学文学部歴史学科），木立雅朗（立命館大学文学部），村上紀夫（奈良大学文学部），岡田万里子（桜美林大学リベラルアーツ学群），紙屋牧子（玉川大学 芸術学部），樋浦郷子（国立歴史民俗博物館研究部），ジョン・ブリーン（国際日本文化研究センター），青江智洋（京都府立丹後郷土資料館），玉城玲子（向日市文化資料館），松川綾子（奈良県立美術館），冨田美香（国立映画アーカイブ），兒山真生（金光教佐馬地教会），兒山陽子（金光図書館）

研究実施内容

2023年

4月1日　近現代の神社と世襲的な神職と地域の正月飾りの文化史　発表者：佐藤雅也（仙台市歴史民俗資料館）

5月7日　畝傍山・神武陵・洞部落跡・橿原神宮 ― 幕末から皇紀2600年事業までのフィールドワーク　発表者：山本信彦

6月17日　明治大正期の日本映画と皇室のイメージ戦略 発表者：紙屋牧子（玉川大学）

7月23日　杉孫七郎と寺社・宮内省 ― 泉涌寺を通して ―　発表者：齊藤紅葉（国士舘大学）

9月2日　茨木市立文化財資料館寄託　キリシタン遺物熟覧 および千提寺・下音羽フィールドワーク　発表者：桑野　梓（茨木市立文化財資料館）

10月7日　文化財鑑賞と京都・奈良観光の社会史　発表者：菅沼明正（九州産業大学）

11月5日　レクチャー上映会「大正期の映画と民衆宗教」
日本における教育・宣伝映画の歩みと宗教 ― 無声映画の時代 ―　発表者：冨田美香（国立映画アーカイブ）
大正から昭和初期の金光教における映画制作と上映活動　発表者：兒山陽子（金光図書館）
於　百周年時計台記念館

12月23日　教育勅語普及団体・一徳会の基礎的研究　発表者：谷川穣（文学研究科）
祇園祭山鉾のまつり方の変化（近世中後期を中心に）　発表者：村上忠喜（京都産業大学）

2024年

1月20日　日本左翼運動の政治文化と追悼儀礼：1920年代後期から30年代初期までの「労農葬」を中心に ―　発表者：胡安美（文学研究科）
敗戦後プロテスタント・キリスト教大学による農村伝道構想：同志社の農本文化事業を通して ―　発表者：田中智子（教育学研究科）

2月11日　人文研アカデミー「近現代天皇制を考える学術集会 ―「建国記念の日」に問う」（協力）
昭和天皇の外遊（1921年）をめぐる

イメージ・ポリティクス
発表者：紙屋牧子（玉川大学）
慰撫と反復：歌の〈私〉と天皇制
発表者：石井美保
「理念としての天皇」論
発表者：福家崇洋
天皇制と陵墓問題：世界遺産名称「仁徳天皇陵古墳」を問う
発表者：高木博志

3月16日　金光教会・金光図書館フィールドワーク
農業集落から門前町への軌跡：明治初期の社殿建築をめぐる村落有力者と金光大神の関係を中心に
発表者：児山真生（金光図書館）

近現代日本の研究資源に関する基礎的研究

班長　小堀　聡・福家崇洋

研究期間　2022年4月～2025年3月（2年目）

研究実施状況

本年度は主に，京都大学内外の各種資料のうち，以下の整理を行なった。まず，京都大学内は人文研所蔵岩井会旧蔵資料および京都大学職員組合所蔵資料である。前者は昨年度からの継続であり，アルバイトも雇用しつつ，早期公開に向けた整理作業を進めている。また，本年度に整理を開始した京都大学職員組合所蔵資料は1948年結成以来の膨大な資料群であり，職組OBの協力も得つつ整理作業を行なっている。職組内部資料のほか科学者運動の資料も含む貴重な資料であることが明らかになった。学外の資料としては，核融合科学研究所所蔵「森一久資料」の調査と整理を継続したほか，名古屋大学経済学研究科所蔵「荒木光太郎文書」の整理を開始した。これは東京帝国大学経済学部教授を務めた荒木光太郎の旧蔵資料であり，経済政策や日本占領政策にかんする文書や写真などで構成される。いずれも資料所蔵機関と方針を相談しつつ作業を進めた結果，仮目録の作成作業が概ね完了した。

研究班員

所内：小堀聡，福家崇洋，KNAUDT, Till

学外：喜多川進（山梨大学生命環境学部），牧野邦昭（慶應義塾大学経済学部），須永哲思（天理大学人間学部），佐々木政文（京都先端科学大学人文学部），立本紘之（法政大学大原社会問題研究所），黒川伊織（エル・ライブラリー）

研究実施内容

2023年

4月25日　京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

5月18日　岩井会資料の整理と意見交換
発表者：小堀　聡・福家崇洋・KNAUDT, Till（人文科学研究所）

5月25日　尼崎市立歴史博物館での資料整理と意見交換　発表者：黒川伊織・福家崇洋（エルライブラリー・人文科学研究所）

6月14日　森一久資料（核融合科学研究所所蔵）の整理と意見交換
発表者：小堀　聡・喜多川進・瀬戸口明久（人文科学研究所・山梨大学）

6月15日　森一久資料（核融合科学研究所所蔵）についての意見交換
発表者：小堀　聡・喜多川進（人文科学研究所・山梨大学）

7月21日　岩井会資料の整理と意見交換
発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

7月26日　荒木光太郎文書（名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室所蔵）の整理と資料所蔵機関との意見交換
発表者：小堀　聡（人文科学研究所）

8月29日　京都大学職員組合資料の整理と意見交換　発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

9月21日　荒木光太郎文書（名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室所蔵）の整理と資料所蔵機関との意見交換
発表者：小堀　聡（人文科学研究所）

10月３日　京都大学職員組合資料の整理と意見交換　　発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

10月19日　森一久資料（核融合科学研究所所蔵）の整理と資料所蔵機関との意見交換　発表者：小堀　聡（人文科学研究所）

10月31日　京都大学職員組合資料の整理と意見交換　　発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

11月29日　岩井会資料の整理と意見交換　　発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

12月12日　森一久資料（核融合科学研究所所蔵）の整理と資料所蔵機関との意見交換　発表者：小堀　聡（人文科学研究所）

2024年

１月16日　京都大学職員組合資料の整理と意見交換　　発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

２月16日　京都大学職員組合資料の整理と意見交換　　発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

２月28日　荒木光太郎文書（名古屋大学大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センター情報資料室所蔵）の整理と意見交換　　発表者：小堀　聡・牧野邦昭（人文科学研究所・慶應義塾大学）

３月14日　京都大学職員組合資料の整理と意見交換　　発表者：小堀　聡・福家崇洋（人文科学研究所）

家族と愛の研究　　班長　冨山一郎

研究期間　2022年４月～2025年３月（２年目）

研究実施状況

２年目である2023年度には，９回の例会を開催し，初年度に引き続きメンバー相互の対話を深め，本研究で共有される多様な関心について，ブレイン・ストーミングと共通認識の構築を繰りかえした。例会にて取り上げられたテーマは，メディアイベントとしての出産と「優生家族体制」批判，家族の「症状」を引き受ける（ことを余儀なくされる）子どもの病理の研究，詩人ゲーテ（の戯曲作品）における家族愛の分析，健康の社会的決定要因の比較研究における家族ファクターの位置，ケア・ペナルティを科された「母」の観点からみるケアと愛の境界など，多岐に渡る。例会のひとつ（11月）は国際シンポジウムを兼ね，国内外から招聘した作家・研究者とともに，中国と日本の児童文学における家族像を比較検討した。また，４月には班員有志で水戸芸術館「ケアリング／マザーフッド：「母」から「他者」のケアを考える現代美術」展を観覧し，本研究テーマのアクチュアリティを体感した。

研究班員

所内：立木康介，直野章子，酒井朋子，藤野志織，藤原辰史

学内：木下千花（人間・環境学研究科），丸山里美（文学研究科）

学外：冨山一郎（同志社大学グローバルスタディーズ研究科），沈恬恬（東京大学大学院法学研究科），中井亜佐子（一橋大学大学院言語社会研究科），楡井誠（東京大学大学院経済学研究科），新藤麻里（東京大学社会科学研究所），小門穂（大阪大学大学院文学研究科），内田利広（龍谷大学文学部），小川公代（上智大学外国語学部），熊谷哲哉（近畿大学経営学部），鈴木洋仁（神戸学院大学現代社会学部），長瀬正子（佛教大学社会福祉学部），花田里欧子（東京女子大学現代教養学部），日高由貴（大阪城南女子短期大学総合保育学科），菅野優香（同志社大学グローバルスタディーズ研究科），DISTEFANO, Anthony（カリフォルニア州立大学フラトン校）

研究実施内容

2023年

５月20日　メディアイベントとしての出産 ―『極私的エロス・恋歌 1974』と優生家族体制　　発表者：木下千花（大学院人間・環境学研究科）

６月17日　アンドレ・ブルトン『ナジャ』改訂版（1963）における「ドキュメント」の問題　　発表者：藤野志織

7月15日　島尾マヤへの家族臨床的接近
発表者：花田里欧子（東京女子大学）
9月16日　The life and after life of leftists in the fifties
発表者：陳光興（外国人客員研究員）
10月21日　ゲーテにおける愛と家族 ― 妹コルネーリアへの愛
発表者：熊谷哲哉（近畿大学）
11月25日　国際シンポジウム「中国と日本の児童文学における家族」
私の目のなかの家族，愛，そして児童文学におけるそれらの運用について
発表者：秦文君
（中国作家協会児童委員会副主任）
日本児童文学と小学校国語教科書 ― 「家族」の描かれ方をてがかりに
発表者：成實朋子（大阪教育大学）
（秦文君氏講演，成實朋子氏講演へのコメント）　コメンテーター：唐亜明
（《小活字》社（北京）編集長）
12月9日　Comparative Research on Social Determinants of Health: Findings from the United States, Current Project Status in Japan, and Relevance to Family and Love Studies
発表者：DISTEFANO, Anthony
（カリフォルニア州立大学／外国人客員研究員）

2024年
1月20日　家族と“愛”：パートナー関係，親子関係，そして，パートナー関係と親子関係
発表者：神原文子（元神戸学院大学）
2月17日　「母」になると「わたし」を失う ― ケアと愛と自己の境界
発表者：直野章子

モノ・知識・環境　　班長　瀬戸口明久

研究期間　2023年4月～2026年3月（1年目）

研究実施状況

令和5年度は例会を10回開催し，研究の方向性について検討した。報告内容は，植物標本，統計データー，マイコン，社会学理論，台湾の犂，出産統計，言語学，植物特許，技術思想，トラクターなどである。これらの議論を通じて，モノ・知識・環境というテーマでどのような問題が検討しうるか議論した。そのうち10月例会（保明綾報告）では，パンデミック班と合同で行い，人文研内のほかの研究班との連携を試みた。そのほか『思想』10月号のトーマス・クーン小特集には，本研究班から瀬戸口と岡澤が寄稿した。この小特集について3月に合評会を行い，本研究班が目指す理論的枠組みについて検討した。2月には班員の河村賢氏のオーガナイズで韓国科学技術院との共催ワークショップを開催し，本研究課題に関わる研究を進めている韓国の大学院生や若手研究者と交流した。

研究班員

所内：瀬戸口明久，KNAUDT, Till，小堀聡，平岡隆二，藤原辰史，岡澤康浩，都留俊太郎
学内：ERICSON, Kjell（学際融合教育研究推進センター），藤本大士（教育学研究科）
学外：河村賢（大阪大学社会技術共創研究センター），標葉隆馬（大阪大学社会技術共創研究センター），中尾麻伊香（広島大学大学院人間社会科学研究科），森下翔（大阪大学社会技術共創研究センター）

研究実施内容

2023年
4月28日　「モノ・知識・環境」4月例会
発表者：瀬戸口明久
（人文科学研究所）
混沌から秩序へ ― モノがつくりあげる世界
5月26日　「モノ・知識・環境」5月例会
発表者：岡澤康浩（人文科学研究所）
〈印刷された数字の雪崩〉と統計データの出現：オブジェクト制作のメディア環境史に向けて
6月23日　「モノ・知識・環境」6月例会
発表者：KNAUDT, Till
（人文科学研究所）

Against Invaders, Pirates, and Wizards: Technological Interest and Young Microcomputer Users in 1980s Japan

9月1日　「モノ・知識・環境」9月例会1
発表者：河村　賢（大阪大学）
実践のなかの概念を捉える：リンチ・ハッキング・ダストン＆ギャリソン

9月29日　「モノ・知識・環境」9月例会2
発表者：都留俊太郎（人文科学研究所）
犂と機智：日本統治期台湾における模造・改造深耕犂の流通

10月27日　「モノ・知識・環境」10月例会（パンデミック班共催）　発表者：保明　綾（マンチェスター大学）
産婆と人口統計 ― 日本の「人口」の健康のために ―

11月24日　「モノ・知識・環境」11月例会
発表者：伊藤順二（人文科学研究所）
ニコライ・マルの系譜：コーカサスの言語学小史

12月12日　「モノ・知識・環境」12月例会
発表者：Kjell David Ericson（学際融合教育研究推進センター）
日本植物特許第一号の前史：「ミブヨモギ時代」を中心に

2024年

1月26日　「モノ・知識・環境」1月例会
発表者：河西棟馬（東京工業大学）
ルイス・マンフォードの史論 ―『技術と文明』（1934）再訪

2月16日　「モノ・知識・環境」2月例会
発表者：藤原辰史（人文科学研究所）
トラクターの世界史

2月21～22日　KAIST STP special workshop, Beyond the Theory/Case Distinction: Reconsidering the East Asian Perspectives of Science, Technology, and Disaster Studies（韓国科学技術院にて同院と共催）
Organizer: Ken Kawamura（Osaka University）
Keynote lecture: Ken Kawamura
Asia as Method Revisited: Reconsidering the East Asian Perspectives of Science, Technology Studies
Special Session for Young Scholars
Moderator: Yasuhiro Okazawa
Speakers: Nagomi Nakamaru（Osaka University），Hyeonbin Park（STP KAIST），Heewon Kim and Seulgi Lee（STP KAIST），Joelle Champalet and Hyunah Keum（STP KAIST）
Special Lecture
Speaker: Akihisa Setoguchi
Environmental History of Disasters: Human, Science, and Insects

3月22日　『思想』クーン小特集合評会
発表者：塚原東吾（神戸大学）
「いまさら」から，「いまこそ」にするにはどう考えたか：古典再生の試み
発表者：瀬戸口明久（人文科学研究所）
コメント
発表者：岡澤康浩（人文科学研究所）
『思想』クーン特集号合評会コメント
発表者：大西琢朗（文学研究科）
『思想』特集「トマス・クーン ―『科学革命の構造』再読 ―」へのコメント　司会：河村　賢（大阪大学）

生きる営みと環境問題　班長　岩城卓二

研究期間　2023年4月～2025年3月（1年目）

研究実施状況

令和4年度末で終了した「環境問題の社会史的研究」班を引き継ぎ，令和5～6年度の期間，「生きる営みと環境問題」班として実施する本研究班は，令

和５年度，10回の研究会を開催した。報告は，人の生きる営みが引き起こす環境破壊の過程や，公害と認知されて以降の活動等々を具体的事実をもって明らかにした。具体的には，沖縄戦における軍事環境の構築と，その選択的な再編，遺構がもつ政治的意味，「史上最大・最悪の公害」である福島原発事故の特質を「ふるさと」被害とし，被害の総体を把握する試み，公害の経験から地域の「生きる価値」を見いだす歩み，公害反対運動における女性の役割等が明らかにされた。またマルクスの物質代謝論と方法的二元論を参照しながら，現在，環境問題にどのように向き合うべきなのかの理論的検討も行った。初年度は，公害と認識される前，認識されて以降，認識後の取り組み，それらが表面的には解決した現在の取り組みと，時間的流れの中で環境問題と生きる営みの関係性を明らかにできた。

研究班員

所内：岩城卓二，石井美保，KNAUDT, Till，小関隆，小堀聡，酒井朋子，瀬戸口明久，高木博志，直野章子，平岡隆二，福家崇洋，藤原辰史，岡澤康浩

学内：石川登（東南アジア地域研究研究所），岩島史（経済学研究科），米家泰作（文学研究科），岡安裕介（国際高等教育院）

学外：青木聡子（東北大学文学研究科），HOLCA, Irina（東京外国語大学），齋藤幸平（東京大学総合文化研究科），高橋美貴（東京農工大学大学院農学研究院），武井弘一（琉球大学国際地域創造学部），町田哲（鳴門教育大学大学院学校教育研究科），松嶋健（広島大学大学院人間社会科学研究科），池田さなえ（京都府立大学文学部），唐澤太輔（秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科），落合功（青山大学経済学部），関礼子（立教大学社会学部），田中雅一（国際ファッション専門職大学国際ファッション学部），比嘉理麻（沖縄国際大学総合文化学部），河野未央（尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ），橋本道範（滋賀県立琵琶湖博物館），木村あや（ハワイ大学マノア校社会学部）

研究実施内容

2023年

5月22日　公害の経験から「地域の価値」をつくるとりくみ ― 倉敷・水島の公害地域再生と多視点性 ―　発表者：林　美帆（公益財団法人水島地域環境再生財団）

6月26日　青空がほしい再訪 ― 高度成長期戸畑の婦人会による反公害運動の道のり　発表者：小堀　聡

8月19日　マルクスの物質代謝論と方法論的二元論　発表者：斎藤幸平（東京大学大学院総合文化研究科）

9月25日　「大地」への帰還 ― マラリア・農地改革・WWF ―　発表者：松嶋　健（広島大学大学院人間社会科学研究科）

11月24日　福島原発公害最大の被害＝「ふるさと剥奪」　発表者：関　礼子（立教大学社会学部）

12月28日　黎明期の宇宙開発政策と「一元化」問題　発表者：福家崇洋

2024年

1月22日　軍事環境を生きる ― 沖縄戦における壕，共同体，生存可能性 ―　発表者：石井美保

2月5日　18世紀日本の時計駆動式宇宙模型と大衆向け宇宙論講義発表者：平岡隆二

2月19日　〈視聴者〉の系譜 ― 環境制御の技術としてのテレビジョン ―　発表者：岡澤康浩

3月8日　近世東北の鉄生産と銭，土砂，洋式高炉 ― 19世紀の仙台藩を事例に ―　発表者：高橋美貴（東京農工大学大学院農学研究院）

文化資源と文化運動　　班長　菊地　暁

研究期間　2023年4月～2026年3月（1年目）

研究実施状況

文化資源の収集・保存・分析・活用を「文化運動」という観点から再考する本研究班は，令和５年度，アカデミズムと市民的公共圏をつなぐ「公共民俗学 public folklore」に関する研究会，民間信仰研

究を中心とした「歴史民俗学 historical folklore」に関する研究会を実施したほか，関連するいくつかの予備的な研究会を実施した。そのほか，京都市左京区に関する文化資源の収集・整理事業に協力した。

研究班員

所内：菊地暁，藤野詩織

学外：矢野敬一（静岡大学），高木史人（武庫川女子大学）

研究実施内容

2023 年

8 月 8 日　文化資源と文化運動
発表者：菊地　暁
フィールド・学史・現実社会 ― 矢野民俗学を読み直す ―
発表者：辻本侑生（弘前大学）
地域の文化資源を編み直す ― 北九州大衆文化史研究会の構想 ―
発表者：真鍋昌賢（北九州市立大学）
小鳥と虫と草花と ― あるいは登山と言葉と ―
発表者：高木史人（武庫川女子大学）
雑誌とサロン ― 新渡戸稲造・柳田國男と学知/学歴 ―
発表者：矢野敬一（静岡大学）

9 月23日　日本民俗学講習会 パブリックでも良いが，パブリックを掲げなくても良いと，私がひそかに思う理由
発表者：菊地　暁
「アマチュア」の心
発表者：雷婷（東京大学）
あまのじゃく若手民俗学者の軌跡 ― 「公共」という「呪い」？ ―
発表者：辻本侑生（弘前大学）
公共民俗学前夜？ ―「菅民俗学」論のための試論／私論 ―
発表者：塚原伸治（東京大学）
島原と菅豊と民俗学
発表者：西村　明（東京大学）
菅さんと私
発表者：俵木　悟（成城大学）
人々の well-being を目指す学問の構想　発表者：村上忠喜（京都産業大学）
コメント（全体）
コメンテーター：菅　豊（東京大学）

2024 年

1 月27日　日本民俗学講習会 小池先生と「絵の民俗」研究
発表者：鈴木英恵（群馬パース大学）
青森県で研究するということ
発表者：村中健大（十和田市役所）
多様な史資料への目配り
発表者：佐藤　優（盛岡大学）
先生と私
発表者：山田厳子（弘前大学）
「東方朔」連作論文再読
発表者：渡部圭一（京都先端科学大学）
簠簋・大雑書・奥会津 ― 小池先生の背中 ―
発表者：馬場真理子（東京大学）
小池先生のご研究からの影響
発表者：松山由布子（中京大学）
青森県における旧暦から新暦への切りかえについて　発表者：下村育世（国立歴史民俗博物館）
新陰陽道叢書覚書
発表者：赤澤春彦（摂南大学）
企画展「陰陽師とは何者か」までの道のり
発表者：梅田千尋（京都女子大学）
歴史と民俗のあいだ ― 小池淳一論序説 ―　発表者：井上智勝（埼玉大学）

3 月 9 日　民俗学座談 民俗学的知の現状と課題
発表者：菊地　暁
発表者：島村恭則（関西学院大学）

高度経済成長期の生活史　班長　藤原辰史

研究期間　2023 年 4 月～2026 年 3 月（1 年目）

研究実施状況

2023 年度は，『暮しの手帖』という雑誌のなかで，

いったいなにが研究の問題となるのかについての予備的発表とさらに，暮しの手帖社で史料に実際に目を通し，調査することで，この会社が担っていたさまざまな側面について知見を得た。とりわけ，高度経済成長期の商品テストやレシピ，編集長の花森安治の戦争体験などについて，重要な知識を得ることができた。また，花森安治のご家族や，編集部だった方の聞き取りをし，同時代の証言を班員のみならず暮しの手帖者社員と共有することができた。

研究班員

所内：藤原辰史，岩城卓二，酒井朋子，石井美保，小堀聡，福家崇洋，瀬戸口明久

学外：青木聡子（東北大学文学部），会田綾子（暮しの手帖社），難波達巳（暮しの手帖社）

研究実施内容

2023 年

5 月15日　暮しの手帖社の資料紹介
発表者：難波達巳（暮しの手帖社）
発表者：会田綾子（暮しの手帖社）

6 月12日　高度経済成長期についてのレクチャー
発表者：小堀　聡

7 月10日　研究班の今後の運営について
発表者：藤原辰史

9 月3，5日　暮しの手帖社での調査
発表者：参加者全員

10月16日　OB の河津一哉さんの聞き取り
発表者：河津一哉
（暮しの手帖社元社員）

11月13日　『花森安治の従軍手帖』における短歌作品と昭和歌壇の戦中・戦後
発表者：菅原百合絵

12月 4 日　『暮しの手帖』と高度経済成長期の生活技術　発表者：瀬戸口明久

2024 年

1 月 5 日　雪野まり「『暮らしの手帖』における自立的ジャーナリズムの形成」を読む
発表者：西川和樹（同志社大学）

東方学研究部

20 世紀中国史の資料的復元　　班長　石川　禎浩

研究期間　2019 年 4 月～2024 年 3 月（5 年目）

研究実施状況

研究班の報告論文集取りまとめのために，期間を 1 年延長してその間 16 回の例会を実施し，報告論文執筆者を中心に報告会をとりおこなった。また，班例会と並行して，論文集用の原稿を募ったところ，20 篇に近い寄稿があった。10 月以降は班員相互による査読と修正を経て，17 篇を精選し，年度末までに全国共同研究・利用拠点の出版助成を受け，刊行に向けた版下の作成までこぎつけることが出来た。

研究班員

所内：石川禎浩，呉孟晋，都留俊太郎，福家崇洋，村上衛（以上所員），瞿艶丹（非常勤研究員），李皓，楊奎松（以上招へい外国人学者），莊帆，丁麗瓊，申晴（以上研究生）

学内：太田出（人間・環境学研究科），小野寺史郎（人間・環境学研究科），貴志俊彦（東南アジア地域研究研究所），津守陽（人間・環境学研究科），羅亜妮（文学研究科），程天徳（人間・環境学研究科），温秋穎（教育学研究科），徐璐（文学研究科），手代木さづき（文学研究科），関藝蕾（文学研究科），張子康（学際融合教育研究推進センター），李羲成（人間・環境学研究科），楊睦（人間・環境学研究科）

学外：秋田朝美（大阪大学人文学研究科），岡野（葉）翔太（大阪大学レーザー科学研究所），韓燕麗（東京大学総合文化研究科），田中仁（大阪大学名誉教授），谷川真一（神戸大学国際文化学研究科），中村元哉（東京大学教養学部），丸田孝志（広島大学総合科学研究科），水羽信男（広島大学総合科学研究科），林礼釗（大阪大学人間科学研究科），アルス（大阪大学人文学研究科），鄭成（兵庫県立大・環境人間学研究科），菊池一隆（愛知学院大学名誉教授），島田美和（慶應義塾大学法学部），

周俊（同志社大学グローバルスタディーズ研究科），瀬戸宏（摂南大学名誉教授），瀬辺啓子（佛教大学文学部），高嶋航（早稲田大学スポーツ科学学術院），郭夢垚（神奈川大学外国語学研究科），土肥歩（同志社大学文学部），三田剛史（明治大学商学部），宮内肇（立命館大学文学部），森川裕貫（関西学院大学文学部），山崎岳（奈良大学文学部），楊韜（佛教大学文学部），和田英男（近畿大学），蒲豊彦（京都橘大学），小堀慎悟（名古屋外国語大学），郭まいか（日本学術振興会），団陽子（日本学術振興会），比護遥（日本学術振興会），範麗雅，谷雪妮（北京師範大学），鄒燦（中国南開大歴史学院），呉世平（復旦大歴史学系）

研究実施内容

2023年

4月14日　毛沢東「論新段階」及其統戦策略的解読問題　発表者：楊奎松（人文科学研究所）
コメンテーター：丁麗瓊（人文科学研究所）

4月21日　中共建党関係資料百年史
発表者：石川禎浩（人文科学研究所）
コメンテーター：荘帆（人文科学研究所）

5月12日　近代上海における外国映画上映騒動の考察：ソ連映画『アビシニア』を例に
発表者：楊韜（佛教大学文学部）
コメンテーター：田村容子（北海道大学文学研究科）
越野剛（慶應義塾大学文学部）

5月26日　清末における梁啓超の外債論
発表者：森川裕貫（関西学院大学文学部）
コメンテーター：村上　衛（人文科学研究所）

6月9日　農業集団化の百科事典：『中国農村的社会主義高潮』の編纂，発行及び評価
発表者：周俊（同志社大学グローバルスタディーズ研究科）
コメンテーター：瀬戸　宏（摂南大学名誉教授）

6月23日　『大連市志・体育志』の編纂：満洲のスポーツ史をいかに記述するか
発表者：高嶋　航（早稲田大学スポーツ科学部）
コメンテーター：福家崇洋（人文科学研究所）

7月7日　己亥建儲事件における鄭観応の政治活動　発表者：李羲成（人間・環境学研究科）
コメンテーター：望月直人（琉球大学国際地域創造学部）
清末満洲人の民族論：『大同報』を中心に　発表者：楊睦（人間・環境学研究科）
コメンテーター：張子康（学際融合教育研究推進センター）

9月29日　1940年代の「影像力」：大戦期の日本写真業界の妥協と実践 ― 総合写真誌『報道写真』『日本写真』から見る
発表者：貴志俊彦（東南アジア地域研究研究所）
コメンテーター：井上祐子（公益財団法人政治経済研究所）

10月13日　ラテン化新文字運動の始動：倪海曙による年表編纂の検討とエスペラント要因　発表者：都留俊太郎（人文科学研究所）
コメンテーター：村田雄二郎（同志社大学グローバルスタディーズ研究科）

10月27日　毛沢東の個人独裁と大躍進：指導者の年譜類からの考察　発表者：谷川真一（神戸大学国際文化学研究科）
コメンテーター：小野寺史郎（人間・環境学研究科）

11月17日　中国のリベラリストと地政学
発表者：水羽信男（広島大学総合科学部）

コメンテーター：柴田陽一
（愛知県立大学人文学部）

12月１日　戦前の中国語教育改革者が見た音読と訓読：支那語学会と倉石武四郎を中心に　発表者：温秋頴（教育学研究科）
コメンテーター：安田敏朗
（一橋大学言語社会研究科）

12月15日　『盛京時報』は誰が読んでいたのか：近代中国における日系漢字新聞の影響力の射程について
発表者：徐璐（文学研究科）
コメンテーター：和田英男
（近畿大学）

2024 年

１月26日　Better Looking than he really is: Being British in Colonial Hong Kong and beyond
発表者：Robert Bickers（人文科学研究所・ブリストル大学）
コメンテーター：秋田　茂
（大阪大学人文学研究科）

２月９日　明清期カントン通事の制度的再検討
発表者：張子康
（学際融合教育研究推進センター）
コメンテーター：村上　衛
（人文科学研究所）

３月１日　戦間期の香港における華人エリートと政治参加：潔浄局議員選挙の復元を例として　発表者：小堀慎悟
（名古屋外国語大学外国語学部）
コメンテーター：谷垣真理子
（東京大学教養学部）

中国在家の仏教観：唐道宣撰『広弘明集』を読む

班長　船山　徹

研究期間　2020 年４月～2024 年３月（４年目）

研究実施状況

最終年度である令和５年度は隔週金曜午後に各３時間，以下の通り，合計 14 回の研究班を開催した。(1) 蕭綱「大法頌〈并序〉船山徹，(2) 同，魏藝，(3) 同，船山徹，(4) 同，魏藝，(5)「上皇太子玄圃講頌啓」「皇太子令答」，趙ウニル，(6)「玄圃園講頌〈并序〉」，船山徹，(7) 同，同，(8) 梁武帝「爲亮法師製涅槃經疏序」，船山徹，(9)「梁簡文帝法寶聯璧序」，倉本尚徳，(10) 同，同，(11)「莊嚴旻法師成實論義疏序」，船山徹，(12) 同，中西俊英，(13)「内典碑銘集序」，魏藝，(14) 同，村田みお，以上 14 回。

研究班員

所内：船山徹，稲葉穣，稲本泰生，ウィッテルン，クリスティアン，古勝隆一，倉本尚徳，中西竜也，石垣章子，ラブダール，ネイト

学内：中村慎之介（文学研究科 PD），慶昭蓉（白眉センター）

学外：河上麻由子（大阪大学大学院人文学研究科），李乃琦（名古屋大学文学研究科），魏藝（龍谷大学大学院文学研究科），中西俊英（京都女子大学文学部），村田みお（近畿大学国際学部），久永昂央（東大寺ミュージアム），趙ウニル（梨花女子大学校）

研究実施内容

2023 年

４月21日　蕭綱「大法頌〈并序〉」(3)
発表者：船山　徹（所内）

５月９日　陸雲「御講波若經序」(4)
発表者：魏藝（龍谷大学大学院）

６月２日　蕭綱「大法頌〈并序〉」(5)
発表者：船山　徹（所内）

６月30日　蕭綱「大法頌〈并序〉」(7)
発表者：魏藝（龍谷大学大学院）

７月７日　「上皇太子玄圃講頌啓」「皇太子令答」
発表者：趙ウニル（梨花女子大学校）

９月15日　「玄圃園講頌〈并序〉」(1)
発表者：船山　徹（所内）

10月６日　「玄圃園講頌〈并序〉」(2)
発表者：船山　徹（所内）

10月20日　梁武帝「爲亮法師製涅槃經疏序」
発表者：船山　徹（所内）

11月17日　「梁簡文帝法寶聯璧序」(1)
発表者：倉本尚徳（所内）

12月１日　「梁簡文帝法寶聯璧序」(2)

発表者：倉本尚徳（所内）
12月15日　「荘嚴旻法師成實論義疏序」(1)
発表者：船山　徹（所内）
2024 年
1 月19日　「荘嚴旻法師成實論義疏序」(2)
発表者：中西俊英（京都女子大学）
2 月16日　「内典碑銘集序」(1)
発表者：魏藝（龍谷大学大学院）
3 月15日　「内典碑銘集序」(2)
発表者：村田みお（近畿大学）

東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究

班長　矢木　毅

研究期間　2021 年 4 月～2026 年 3 月（3 年目）

研究実施状況

『東方文化研究所続増漢籍目録』所収の漢籍について逐冊調査を行い，序跋，蔵書印などの知見を「典拠情報」にまとめて集積した。将来的には全国漢籍データベースにリンクさせた形でインターネット上に公開する予定である。

研究班員

所内：矢木毅，髙井たかね，永田知之，藤井律之，古松崇志，宮宅潔，楊維公，瞿艷丹，荘帆

学内：道坂昭廣（人間・環境学研究科）

研究実施内容

2023 年
4 月12日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部礼類　発表者：宮宅　潔
4 月19日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部礼類　発表者：宮宅　潔
5 月10日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部礼類　発表者：矢木　毅
5 月17日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部礼類　発表者：楊維公
5 月24日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部礼類　発表者：楊維公
5 月31日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部礼類　発表者：楊維公
6 月 7 日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部春秋類　発表者：髙井たかね
6 月14日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部春秋類　発表者：髙井たかね
6 月21日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部春秋類　発表者：髙井たかね
6 月28日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部春秋類　発表者：永田知之
7 月 5 日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部春秋類　発表者：永田知之
7 月12日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部春秋類　発表者：藤井律之
7 月19日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部春秋類　発表者：藤井律之
7 月26日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：古松崇志
10月 4 日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：古松崇志
10月11日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：古松崇志
10月18日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：宮宅　潔
10月25日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：矢木　毅
11月 1 日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：宮宅　潔
11月15日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：矢木　毅
11月22日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：矢木　毅
11月29日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：矢木　毅
12月 6 日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：楊維公
12月13日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：楊維公
12月20日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部四書類　発表者：楊維公
12月27日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部孝経類　発表者：髙井たかね
2024 年
1 月10日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部孝経類　発表者：髙井たかね
1 月17日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部孝

経類　　発表者：髙井たかね
1月24日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部孝
経類　　発表者：永田知之
1月31日　東方文化研究所続増漢籍目録 経部孝
経類　　発表者：永田知之

漢籍共同研究システムの構築

班長　ウィッテルン　クリスティアン

研究期間　2021年4月～2026年3月（3年目）

研究実施状況

令和5年度は継続的，班員や使用者の要望を中心にプラットフォームの機能を拡張しました。その中の特筆すべき事として，日本漢文文献の対応も可能になりました。また，研究史の観点と文献学の観点から必要になりました事ですが，複数の翻訳（多い場合は30種以上）が同時に検討の対象として出来る仕組みを追加しました。さらに，中国伝統医学関係文献を1290点余り追加しました。そのために醫家類の分類を細分化して，21子目を追加しました。研究会の方ですが，令和5年度は博士課程の若手研究者も積極的に発表して頂いて，議論も活発に行いました。

研究班員

所内：WITTERN, Christian，安岡孝一

学内：

学外：重田みち（京都芸術大学），守岡知彦（人間文化研究機構 国文学研究資料館），HARBSMEIER, Christoph（University of Oslo, Norway），SCHIMMELPFENNIG, Michael（Australian National University College of Asia and the Pacific, Australian Centre on China in the World），STANLEY-BAKER, Michael（Nanyang Technological University Lee Kong Chian School of Medicine/School of Humanities），SCHWERMANN, Christian（Ruhr University Bochum Department of Chinese Language and Literature），WILKE, Tobias（Ruhr University Bochum Department of Chinese Language and Literature），SEHNAL, David（Heidelberg University Center for East Asian Studies），Zádrapa, Lukáš（Charles University Institute of East Asian Studies），PLASSEN, Jörg（Ruhr University Bochum Department of Religious Studies），OSTERKAMP, Sven（Ruhr University Bochum Department of Japanese Language and Literature），FAHR, Paul（Ruhr University Bochum Department of Chinese Language and Literature），ZHAO, Fudie（University of Oxford, United Kingdom Faculty of Asian and Middle Eastern Studies），KIEL, Valerie（University of Bochum Department of Japanese Languages and Literature），Bréard, Andrea（Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg Sinology - Algorithms, Prognostics, and Statistics），KESSLER, Florian（Friedrich-Alexander-Universität Erlangen-Nürnberg Sinology - Algorithms, Prognostics, and Statistics），SCHMIDT, Anja（Ruhr University Bochum Department of Korean Language and Literature），DIAKOFF, Harry（Independent Scholar）

研究実施内容

2023年

4月28日　Review and outlook of the collaborative platform
発表者：Christian Wittern 班長

5月12日　A classified catalog and its applications in the TLS
発表者：Christian Wittern

5月26日　Signup, Text-critical editing and Bibliography in the TLS
発表者：Christian Wittern

6月9日　What Can and Cannot Be Said: Attempting to Use the TLS to Measure 'Correctness'
発表者：Valerie Kiel 班員
Anja Schmidt 班員

6月23日　Further Examples

発表者：Valerie Kiel 班員
Anja Schmidt 班員

7月7日　Roadmap for further development
発表者：Christian Wittern

10月13日　Recent updates to the TLS server
発表者：Christian Wittern

10月27日　Suggestions for the User Interface Suggestions for the User Interface
発表者：Harry Diakoff 班員

11月24日　Translations over time
発表者：Christoph Harbsmeier 班員

12月8日　Exploring the usage of 一 yi using language models
発表者：Florian Kessler 班員

2024年

1月12日　Some further musings on computer-assisted intertextuality research and implementable desiderata for search functions in the TLS
発表者：Joerg Plassen 班員

1月24，26日　Conceptualizing 'One'（一）
司会：Andrea Bréard 班員

秦漢法制史料の研究　　班長　宮宅　潔

研究期間　2021年4月～2026年3月（3年目）

研究実施状況

まず，前年度に引き続き岳麓書院所蔵簡《秦律令（貳）》の会読を進め，第56簡から第127簡までの70簡ほどを読了した。そのなかには，裁判の長期化を防ぐための指示や，上行文書の細かい書式についての規定が含まれ，これらの重要な条文に十分考証を加えたうえで，訳注を作成した。また，前年度に読了した《秦律令（貳）》1～72簡の訳注原稿を整理し，本年度刊行の『東方学報』に寄稿し，掲載された。里耶秦簡〔壹〕の会読もこれと平行して行い，これについては関係論文を中国・武漢大学のHP「簡帛網」に投稿する予定である。あわせて，この研究班を開催母体として，中国・武漢大学，韓国・ソウル大学と共同でオンラインの研究会を4回開催し，戦国秦漢時期の簡牘史料関連の研究報告・討議を行った。

研究班員

所内：宮宅潔，古勝隆一，野原将揮，藤井律之，陳捷，安永知晃

学内：斎藤賢（文学研究科），西真輝（文学研究科），林怡冰（文学研究科），章瀟逸（人間・環境学研究科），魏星（人間・環境学研究科）

学外：土口史記（岡山大学），劉聡（岡山大学），李晟（岡山大学），劉潔（岡山大学），目黒杏子（京都府立大学），角谷常子（奈良大学），鷹取祐司（立命館大学），佐藤達郎（関西学院大学），太田麻衣子（国士舘大学），宗周太郎（大谷大学），畑野吉則（立命館大学），郭聡敏（立命館大学），内山　峻（明治大学），髙田菜々子（明治大学），金秉駿（ソウル大学），楊長玉（雲南民族大学），曹天江（清華大学），飯田祥子（公益財団法人古代学協会）

研究実施内容

2023年

4月7日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕56-62
発表者：劉聡（岡山大学）

4月14日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕56-62
発表者：劉聡（岡山大学）

4月21日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕56-62
発表者：劉聡（岡山大学）

4月28日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕63-72
発表者：宮宅　潔

5月12日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕63-72
発表者：宮宅　潔

5月19日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕63-72
発表者：宮宅　潔

5月26日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕73-81
発表者：飯田祥子（古代学協会）

6月2日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕73-81
発表者：飯田祥子（古代学協会）

6月9日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕73-81
発表者：飯田祥子（古代学協会）

6月16日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕82-91
発表者：内山　峻（明治大学）

6月23日　岳麓簡会読　岳麓〔伍〕82-91

発表者：内山　峻（明治大学）
6月30日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕82-91
発表者：内山　峻（明治大学）
7月7日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕92-99
発表者：髙田菜々子（明治大学）
7月14日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕92-99
発表者：髙田菜々子（明治大学）
7月21日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕92-99
発表者：髙田菜々子（明治大学）
7月28日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕100-110
発表者：斎藤　賢（文学研究科）
9月1日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕100-110
発表者：斎藤　賢（文学研究科）
9月8日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1354～⑧1391
発表者：飯田　祥子（古代学協会）
9月15日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕100-110
発表者：斎藤　賢（文学研究科）
9月22日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1244～⑧1278
発表者：太田麻衣子（国士舘大学）
9月29日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕100-110
発表者：斎藤　賢（文学研究科）
10月6日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1244～⑧1278
発表者：太田麻衣子（国士舘大学）
10月13日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕111-119
発表者：魏星（人間・環境学研究科）
10月20日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1244～⑧1278
発表者：太田麻衣子（国士舘大学）
11月10日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕111-119
発表者：魏星（人間・環境学研究科）
11月17日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1244～⑧1278
発表者：太田麻衣子（国士舘大学）
11月24日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕111-119
発表者：魏星（人間・環境学研究科）
12月1日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1279～⑧1312　発表者：林怡冰（文学研究科）
12月8日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕111-119
発表者：魏星（人間・環境学研究科）
12月15日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1279～⑧1312　発表者：林怡冰（文学研究科）
12月22日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕111-119
発表者：魏星（人間・環境学研究科）

2024年

1月12日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1279～⑧1312　発表者：林怡冰（文学研究科）
1月19日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕120-127
発表者：畑野吉則（立命館大学）
1月26日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1279～⑧1312　発表者：林怡冰（文学研究科）
2月2日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕120-127
発表者：畑野吉則（立命館大学）
2月9日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1392～⑧1436　発表者：内山　峻（明治大学）
2月16日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕120-127
発表者：畑野吉則（立命館大学）
3月1日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1392～⑧1436　発表者：内山　峻（明治大学）
3月8日　岳麓簡会読 岳麓〔伍〕120-127
発表者：畑野吉則（立命館大学）
3月15日　里耶秦簡会読 里耶秦簡⑧ 1392～⑧1436　発表者：内山　峻（明治大学）

チベットにおけるコミュニケーションツールの研究 ― 書簡文化の歴史的変遷と現代的意義 ―

班長　池田　巧

研究期間　2022年4月～2025年3月（2年目）

研究実施状況

チベット語の書簡について，班員の間で基本的な知識と認識を共有するべくさまざまな書簡文書の紹介を含む報告を聞き，分野横断的な討論と検討を行なった。書簡に加えて多様な文書の書式についての研究報告もあり，それぞれのテーマごとに検討を加え，書かれた文書の地域的，時代的な諸特徴についての理解を深めた。チベット語の書簡の書式と内容についての資料のひとつに，青木文教が請来したチベット語の書簡の書き方についてのマニュアルの写本がある。この資料は，これまでに公式に出版されたことがなく，その内容についてもほとんど知られ

ていない。この写本を撮影した写真版に基づき，会読を行うための校本を作成するべくチベット文字の入力を依頼し，デジタルテキストの作成を継続した。また定例の研究集会を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催し，班員各位の先端的な研究成果の報告のほか，ゲストスピーカーから最新の研究報告を聞く機会を得た。

研究班員

所内：池田巧，西田愛，稲葉穣，中西竜也，野原将揮

学内：小西賢吾（人と社会の未来研究院），井内真帆（白眉センター・文学部）

学外：星泉（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所），根本裕史（広島大学大学院文学研究科），海老原志穂（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所），山本達也（静岡大学人文社会科学部），小林亮介（九州大学比較社会文化研究院），岩田啓介（筑波大学人文社会系），長岡慶（東京大学・日本学術振興会），岩尾一史（龍谷大学文学部），大川謙作（日本大学文理学部），別所裕介（駒沢大学総合教育研究部），山本明志（大阪国際大学基幹教育機構），小野田俊蔵（佛教大学），三宅伸一郎（大谷大学），小松原ゆり（明治大学文学部），村上大輔（駿河台大学現代文化学部），加納和雄（駒澤大学仏教学部），池尻陽子（関西大学文学部），旗手瞳（龍谷大学・日本学術振興会），ガザンジェ（東洋文庫・日本学術振興会）

研究実施内容

2023 年

4 月15日　チベット語の書簡あれこれ
発表者：三宅伸一郎（大谷大学）

5 月27日　Workshop on History and Culture in Tibet and Ladakh Continuity and changes in Ladakh from the Kushan & post-Kushan to the Tibetan periods: an archaeological exploration.
発表者：Quentin Devers（CNRS, Paris）
Early Tibetan art and inscriptions in Ladakh.
発表者：Nils Martin（CRCAO, Paris）

6 月17日　チベット語文書におけるチェター（che rtags, che mgo）について
発表者：池尻陽子（関西大学）

7 月22日　山口瑞鳳先生を偲ぶ会 in 関西 チベットからの“最初の留学生”ツァワ・ティトゥルが西本願寺に宛てた私信
発表者：井内真帆（京都大学白眉センター）
発表者：多杰才旦（青海民族大学）

11月18日　パクパとレルティの往復書簡
発表者：小野田俊蔵（佛教大学）

12月23日　チベット文学に見る書簡文化の諸相と書簡体小説
発表者：星　泉（東京外国語大学）

2024 年

3 月 9 日　『蒙古堂档』にみる清朝・チベット間交渉の書簡と口述
発表者：岩田啓介（筑波大学）
仏教文学作品としての書簡 ― インドとチベットの事例 ―
発表者：加納和雄（駒澤大学）

東アジアの宗教美術と社会　　班長　稲本泰生

研究期間　2022 年 4 月～2025 年 3 月（2 年目）

研究実施状況

二年目の 2023 年度も対面・オンラインのハイブリッドで研究会を開催し，メンバーの参加形態は各回ともほぼ半々であった。当班では研究所の蔵する拓本資料を活用した龍門石窟造像記の読解を継続的に行っている。2023 年度は初唐期に主要造像が完成した賓陽南洞を取り上げ，最重要史料である「伊闕仏龕之碑」の精読を行ったほか，洞内東壁については無紀年・無銘分も含めた全ての造像に網羅的な検討を加えた。またかつて龍門研究院に在籍し，同洞について包括的な研究を行ってきた李瀾氏による二度の研究報告を実施し，最先端の知見を共有することができた。龍門研究に加えてメンバー各人の専門分野に沿った研究報告にも力を入れ，中央アジア

から東アジアに及ぶ，仏教関連の遺構と遺物を扱った多彩な発表が行われた。このほか川瀬由照氏をゲストスピーカーとして招き，東アジアの僧形像に関する新説に接する機会を得た。

研究班員

所内：稲本泰生，安岡孝一，フォルテ・エリカ，古勝隆一，倉本尚徳，呉孟晋，向井佑介，佐藤智水，打本和音，黄蓉，姜伊，李瀾

学内：冨岡采花（文学研究科），大谷弦（文学研究科）

学外：上枝いづみ（金沢大学・人間社会研究域），内記理（愛知県立大学），アヴァンツィ・カルロッタ（秋田県立大学），山名伸生（京都精華大学），大西磨希子（佛教大学），濱田瑞美（横浜美術大），篠原典生（中央大学），高橋早紀子（愛知学院大学），苫名悠（佛教大学），高志緑（大阪大谷大学），檜山智美（国際仏教学大学院大学），石松日奈子（東京国立博物館），齋藤龍一（大阪市立美術館），田林啓（大阪市立美術館），王砥人（京都国立博物館），北村一仁（河南農業大），易丹韵（中国社会科学院），黄盼（中国社会科学院），呉虹（復旦大学）

研究実施内容

2023年

4月11日　「伊闕仏龕之碑」会読
発表者：稲本泰生（人文科学研究所）

4月12日　「伊闕仏龕之碑」会読
発表者：稲本泰生

5月23日　研究報告：唐代龍門石窟における女性仏教徒とその実践
発表者：李瀾（マクマスター大学）

6月13日　研究報告：敦煌蔵経洞出土文書 S. 2897 V，P. 2649V に関する一考察 ― 法界仏像との関連性を中心に ―
発表者：易丹韵（中国社会科学院）

6月27日　「伊闕仏龕之碑」会読
発表者：稲本泰生

7月11日　「伊闕仏龕之碑」会読
発表者：稲本泰生

7月25日　研究報告：薬師如来供養儀式の図像研究 ― 中古期の敦煌壁画関連図像を中心に
発表者：黄蓉（浙江大学）

10月10日　賓陽南洞東壁造像記の再検討
発表者：大谷　弦（文学研究科）

10月24日　賓陽南洞東壁造像記の再検討
発表者：大谷　弦

11月14日　研究報告：敦煌莫高窟第323窟再考
発表者：濱田瑞美（横浜美術大学）

11月28日　賓陽南洞東壁造像記の再検討
発表者：大谷　弦

12月12日　研究報告：トックズ・サライ寺院・建築Bの仏教説話図について
発表者：篠原典生（中央大学）

2024年

1月23日　研究報告：賓陽南洞における中小龕の開鑿順序及び供養者ネットワークの研究　発表者：李瀾（マクマスター大学）

2月13日　研究報告：東大寺良弁僧正像の読み取りと観音化身説
発表者：川瀬由照（早稲田大学）

近現代中国の制度とモデル　　班長　村上　衛

研究期間　2023年4月～2024年3月（1年目）

研究実施状況

令和5年度は令和2年度より3年間開催したB班をC班で1年延長する形をとり，最終報告書に向けた報告と若手の報告に重点をおいて開催した。令和4年度までと同様に全て対面とオンラインの併用で実施した。計18回の研究会を行い，19人が報告を行い，のべ568人の参加を得た。報告者は10名が学外に所属し，9名が若手である。おおむね報告90分，コメント・討論90分という時間配分で行われ，対面での参加者が増えたことによって，議論はより活発となった。オンラインを併用したことによって国内や中国・台湾・韓国からの参加者を得て，対面だけでは得られない貴重なコメントなどをいただくことができた。なお，本研究班と関連して現代中国研究センターでは合評会1回，講演会2回，ラウンドテーブル1回を開催し，研究班の枠を超えて学術交流を促進することができた。

研究班員

所内：村上衛，石川禎浩，籠谷直人，呉孟晋，谷雪妮，小堀聡，申晴，荘帆，丁麗瓊，都留俊太郎，平岡隆二，古松崇志，瞿艶丹

学内：小野寺史郎（人間・環境学研究科），太田出（人間・環境学研究科），貴志俊彦（東南アジア地域研究研究所），小島泰雄（人間・環境学研究科），小林篤史（東南アジア地域研究研究所），塩出浩之（文学研究科），鈴木秀光（法学研究科），巫靚（人間・環境学研究科），温秋顥（教育学研究科），関藝蕾（文学研究科），呉舒平（法学研究科），黄偉軒（法学研究科），黄崢崢（人間・環境学研究科），徐璐（文学研究科），角屋敷直哉（人間・環境学研究科），田子晃矢（文学研究科），張子康（文学研究科），趙嵩（法学研究科），手代木さづき（文学研究科），彭皓（文学研究科），穆林（文学研究科），孟奇（文学研究科），葉勝（文学研究科），羅亜妮（文学研究科），梁鎮海（文学研究科），林淑美（国際高等教育院）

学外：殷晴（埼玉大学人文社会科学研究科），秋田朝美（大阪大学人文学研究科），大坪慶之（三重大学教育学部），岡田悠希（大阪大学文学研究科），梶谷懐（神戸大学経済学研究科），片山剛（大阪大学），木越義則（名古屋大学経済学研究科），木下慎梧（東京大学東洋文化研究所），久保茉莉子（埼玉大学人文社会科学研究科），小林亮介（九州大学大学院比較社会文化研究院），塩谷哲史（筑波大学人文社会系），城山智子（東京大学経済学研究科），田口宏二朗（大阪大学文学研究科），谷川真一（神戸大学大学院国際文化学研究科），団陽子（神戸大学大学院国際文化学研究科），富澤芳亜（島根大学教育学部），豊岡康史（信州大学人文学部），比護遙（東京大学総合文化研究科），丸田孝志（広島大学大学院総合科学研究科），望月直人（琉球大学国際地域創造学部），柳静我（鳥取大学地域学部），鷲尾浩幸（北海道教育大学教育学部札幌校），井上徹（大阪市立大学），岩本真利絵（釧路公立大学経済学部），易星星（兵庫県立大学国際商経学部），王艶文（京都府立大学文学研究科），岡本　隆司（京都府立大学文学部），荻恵里子（京都府立大学大学院文学研究科），木村可奈子（滋賀県立大学人間文化学部），苗婧（島根県立大学基礎教養部），彭浩（大阪市立大学社会科学系研究院経済学研究科），堀地明（北九州市立大学外国語学部），石川亮太（立命館大学経営学部），上田貴子（近畿大学文芸学部），小野達哉（大阪経済法科大学），夏磊（早稲田大学経済学研究科），郭まいか（同志社大学グローバル・スタディーズ研究科），郭夢垚（神奈川大学外国語学研究科），加藤雄三（専修大学法学部），金丸裕一（立命館大学経済学部），川西孝男（関西学院大学総合政策研究科），祁蘇曼（立命館大学文学研究科），菊池一隆（愛知学院大学文学部），久保田裕次（国士舘大学文学部），兒玉州平（大阪経済大学経営学部），小堀慎悟（名古屋外国語大学），坂井田夕起子（愛知大学国際問題研究所），佐野実（国士舘大学 21 世紀アジア学部），篠根拓人（慶應義塾大学経済学部），周俊（同志社大学文学部グローバル・スタディーズ研究科），城地孝（同志社大学文学部），園田節子（立命館大学国際関係學部），高嶋航（早稲田大学スポーツ科学部），瀧田豪（京都産業大学法学部），田中剛（帝京大学文学部），陳来幸（ノートルダム清心女子大学），土肥歩（同志社大学文学部），土居智典（長崎外国語大学外国語学部），豊嶋順揮（立命館大学文学部），根無新太郎（大阪学院大学法学部），箱田恵子（京都女子大学文学部），浜田直也（神戸女子大学），範麗雅（愛知大学），平井健介（甲南大学経済学部），細見和弘（立命館大学経済学部），三田剛史（明治大学商学部），

宮内肇（立命館大学文学部），村尾進（天理大学国際学部），村田雄二郎（同志社大学文学部グローバル・スタディーズ研究科），本野英一（早稲田大学政治経済学術院），森川裕貫（関西学院大学文学部），山崎岳（奈良大学文学部），山本一（立命館大学文学部），楊韜（仏教大学文学部），吉田建一郎（大阪経済大学経済学部），漆麟（孫文記念館），安東強（中山大学歴史系），王怡然（浙江外国語学院），王天馳（北京大学），蕭文遠（中山大学歴史系），陳延湲（中央研究院台湾史研究所），陳瑤（廈門大学歴史系），彭鵬（中国歴史研究院近代史研究所），毛暁陽（閩江学院歴史系），楊峻懿（蘇州大学・社会学院歴史系），李ハンキョル（延世大学），Debin Ma（University of Oxford），Robert Hellyer（Wake Forest University），蒲豊彦，松村光庸

研究実施内容

2023 年

4 月28日　近代世界海運の中の東アジア ― 石炭，穀物，傭船市場
発表者：木越義則（名古屋大学）
コメンテーター：木庭俊彦（神奈川大学）

5 月19日　清代における政治情報の伝播とメディアの変遷　発表者：殷晴（埼玉大学）
コメンテーター：塩出浩之（文学研究科）

6 月 2 日　清末四川省における糖業の隆盛と客家系移住者
発表者：岡田悠希（大阪大学）
コメンテーター：菊池秀明（国際基督教大学）

6 月16日　清代後期の州県官府による非正規の課徴 ― 四川省南部県の「取行応差」を例として ―
発表者：穆林（文学研究科）
コメンテーター：滝野正二郎（山口大学）

6 月30日　越劇女優の「母」と「姉妹」― 興業を支えた人々の背景をめぐって
発表者：手代木さづき（文学研究科）
コメンテーター：藤野真子（関西学院大学）

7 月14日　清代における女性の刑罰
発表者：平野智也（文学研究科）
コメンテーター：赤城恵美子（中央大学）

漢冶萍工業システムの形成 ― 清末石炭供給組織における官・商の性質を例として　発表者：蒙奇（文学研究科）
コメンテーター：萩原　充（釧路公立大学）
コメンテーター：李培徳（香港大学）

7 月21日　郭嵩燾の理想と実践の一考察 ― 「アヘン反対運動」と『中庸章句質疑』を手掛かりに
発表者：顔琦哲（京都府立大学）
コメンテーター：苗婧（島根県立大学）

10月 6 日　卫斯林与近代中国币制改革
発表者：申晴（人文科学研究所/武漢大学）
コメンテーター：諸田博昭（拓殖大学）

10月20日　1850 年代ロシアの対清・対日交渉とポサドニック号事件
発表者：塩谷哲史（筑波大学）
コメンテーター：森永貴子（立命館大学）

11月10日　清・ジュンガル戦争における清軍捕虜の研究 ― ホトン・ノールの戦いの清軍捕虜を中心に
発表者：葉勝（文学研究科）
コメンテーター：谷井陽子（天理大学）

11月24日　清代中後期における女性知識人の生き方：陳爾士家族を中心に
発表者：瞿艶丹（人文科学研究所）
コメンテーター：伍躍

（大阪経済法科大学）

12月８日　上海共同租界の華商・華人企業の資産保護機能の終焉，1927年～1935年
発表者：本野英一（早稲田大学）
コメンテーター：城山智子（東京大学）

12月22日　対中国1950年代“查田定产”问题的再考察　発表者：楊奎松（人文研/華東師範大学）
コメンテーター：松村史穂（北海道大学）

2024年

１月19日　マカオの領域確定交渉（1909年）と仲裁裁判
発表者：箱田恵子（京都女子大学）
コメンテーター：吉澤誠一郎（東京大学）

１月26日　Better Looking than he really is: Being British in Colonial Hong Kong and beyond　発表者：Robert Bickers（人文研/ブリストル大学）
コメンテーター：秋田　茂（大阪大学）

２月２日　孫文の日本人への最後のメッセージ―島津岬・古屋孫次郎『上海に於ける朝鮮人の実情について』に関する一考察
発表者：浜田直也（神戸女子大学）
コメンテーター：蔣海波（孫文記念館）

２月16日　「ドイツ商」遠東鋼絲布廠（German Far East Card Co.）について
発表者：富澤芳亜（島根大学）
コメンテーター：浅田進史（駒澤大学）

３月８日　登記の時代３：南京土地登記文書からみる「所有権」
発表者：田口宏二朗（大阪大学）
コメンテーター：佐藤　創（南山大学）

アジアにおける宗教諸文化の越境的波及と「地域」創出　班長　稲葉　穣・中西　竜也

研究期間　2023年４月～2026年３月（１年目）

研究実施状況

令和５年度は，全17回の研究会を開催した。うち６回は，アフマド・スィルヒンディー『書簡集』（ペルシア語）の会読を行い，訳注作成作業を進めた。スーフィズムの思想・体験を記した当該テキストは極めて難解で，読み進めた分量はそれほど多くないが，そのぶん討論に多くの時間を割き，テキストの精密な読解を心掛けた。宗教文化の越境的波及の代表的な事例であるムジャッディディーヤ派のスーフィズムに関する新しく深い知見を参加者のあいだで蓄積・共有し得た。のこりの11回は，班員の研究報告会（都合７回，うち２回は英語による）や海外からのゲスト・スピーカーの講演会（都合４回，いずれも英語による）を開催した。個々の研究報告の具体的内容は多岐に渡ったが，総じて，ある「地域」を越えた宗教文化現象が当該「地域」の形成や想像に如何なるインパクトを与えたかについて豊富な事例，鋭い洞察を提供したといえる。

研究班員

所内：稲葉穣，中西竜也，慶昭蓉，BROWNING, Jason，FORTE, Erica

学内：帯谷知可（東南アジア地域研究研究所），今松泰（アジア・アフリカ地域研究研究科），磯貝健一（文学研究科），對馬稔（文学研究科），東長靖（アジア・アフリカ地域研究研究科），岩本佳子（文学研究科），笹原健（文学研究科），山口元樹（アジア・アフリカ地域研究研究科），原陸郎（アジア・アフリカ地域研究研究科），笹原健（文学研究科），荻原裕敏（非常勤講師）

学外：和田郁子（岡山大学），真下裕之（神戸大学），伊藤隆郎（神戸大学），小倉智史（東京外国語大学），矢島洋一（奈良女子大学），大津谷馨（東京外国語大学），内記理（愛知県立大学），宮本亮一（奈良大学），川本正知（奈良大学），岩井俊平（龍谷大学），杉山雅樹（京都外国語大学），

森山央朗（同志社大学），二宮文子（青山学院大学），杉山隆一（京都橘大学），小澤一郎（立命館大学），檜山智美（国際仏教学大学院大学），岩尾一史（龍谷大学）

研究実施内容

2023年

4月14日　ムジャッディディーヤ派が中国西北部にもたらしたもの―「スーフィズム四大流派」言説と中国ムスリム・アイデンティティ　発表者：中西竜也（人文科学研究所）

4月28日　アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読　発表者：中西竜也（人文科学研究所）

5月12日　アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読　発表者：中西竜也（人文科学研究所）

5月26日　An Examination of Variations on the Buddhist Doctrine of Momentariness and Their Transmission to Early Islamic Theologians: Sources, Methods, and Arguments for Establishing a Philosophical Genealogy of Early Occasionalism　発表者：Browning, Jason（Indiana University Bloomington），人文科学研究所（外国人共同研究者）

6月9日　Marginal Sources for the Study of Egyptian Cities and Towns（13-18th centuries）　発表者：Magdi Guirguis（Kafrelsheik University）

The Archaeological Mission in the Atrek Valley, New Discoveries　発表者：Rocco Rante（Musée du Louvres）

6月23日　アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読　発表者：中西竜也（人文科学研究所）

7月14日　近代オスマン朝における同化・適応がもたらしたもの：アブデュルハミト2世期におけるハミディイェ連隊・クルド・イェズィーディー　発表者：岩本佳子（文学研究科）

7月28日　アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読　発表者：中西竜也（人文科学研究所）

9月22日　Discovery of cotton fibres in some pre-Islamic paper from the Tarim Basin（Xinjiang, China）　発表者：慶昭蓉（白眉センター）

10月13日　アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読　発表者：中西竜也（人文科学研究所）

10月27日　アフマド・スィルヒンディー『書簡集』会読　発表者：中西竜也（人文科学研究所）

11月10日　Preservation and Revitalization of Cultural Heritage in Central Asia　司会：慶昭蓉（白眉センター）

One Century of DAFA: Achievements and Perspectives　発表者：Henri-Paul FRANCFORT（Institut de France）

The Central Asian branch of ArScAn（Archaeology and Science of Antiquity, CNRS-University Paris-Nanterre）: Main Expeditions and Current Research　発表者：Corinne DEBAINE-FRANCFORT

Centre national de la recherche scientifique; Gāndhārī Documents from South and Central Asia: New Discoveries and Research　発表者：Stefan BAUMS（Ludwig-Maximilians-Universität München）

11月27日　アラビア文字墓碑銘を読み解く―12～20世紀の事例から　発表者：井谷鋼造（文学研究科（名誉教授））

2024年

1月26日　バルカンにおけるサル・サルトゥク廟

の現状　　発表者：今松　泰
（アジア・アフリカ地域研究研究科）

2月9日　Naqshbandi-Wahhabi rivalry as a major force in the modernization of the Islamic world
発表者：Michael Leezenberg
（University of Amsterdam）

2月12日　イランにおける聖地・聖廟の発展と変容 ― マシュハドとゴムを事例に ―
発表者：杉山隆一（京都橘大学）

3月8日　司会：中西竜也
（人文科学研究所）
Contextualising al-Bīrūnī's Taḥqīq mā li-l-Hind as a source for the cultural history of early medieval Panjab
発表者：Noémie Verdon
（Maître Assistante）
Ambizione FNS, Department of Slavic and South Asian Studies, University of Lausanne；Visualizing Afghanistan: Images and narratives of the Bamiyan Buddhas in twentieth-century Japan
発表者：Shamim Homayun
（Australian National University, School of Archaeology and Anthropology）

『玉燭宝典』研究　　班長　古勝　隆一

研究期間　2023年4月～2027年3月（1年目）

研究実施状況

本年度は，本研究班にとって第一年目であり，また，本研究班は訳注の形式を取らないため，前半期においてはさまざまな角度から『玉燭宝典』に検討を加えた。それにより，書写された文字をどのように研究し，どのように電子化してゆくのかについて大体の方針を立てることができ，また日本に伝承された漢籍の取り扱いについて，基本的な認識を得ることができた。さらに後半期において，巻一（全十一巻のうち）の大部分を読解することができた。同書に引用された漢籍（伝存文献および佚書）について，担当者が資料を作成し，詳しく検討した。

研究班員

所内：古勝隆一，永田知之，倉本尚徳，藤井律之，白須裕之，楊維公

学内：道坂昭廣（人間・環境学研究科），魏星（人間・環境学研究科），福谷彬（人間・環境学研究科），成田健太郎（文学研究科），田尻健太（文学研究科），王歓（文学研究科）

学外：内山直樹（千葉大学・文学部），竹元規人（福岡教育大学・教育学部），新田元規（徳島大学・総合学部），王孫涵之（弘前大学・人文社会科学部），富嘉吟（お茶の水女子大学・基幹研究院），白石將人（三重大学・人文学部），陳佑真（帝京大学・文学部），重田みち（京都芸術大学・通信教育部），山口智弘（駒澤大学・文学部），李弘喆（長春師範大学）

研究実施内容

2023年

4月18日　本研究班の趣旨説明，および今後の進め方　　司会：古勝隆一

5月16日　『玉燭宝典』前田本の用字をめぐって
発表者：古勝隆一

6月20日　『玉燭宝典』テクストデータのTEIによる構築　　発表者：白須裕之

7月18日　『玉燭宝典』をめぐる日本の事情に関する先行研究および日本の歳時記に引用された『玉燭宝典』
発表者：重田みち
（京都芸術大学・通信教育部）

10月24日　『玉燭宝典』序を読む
発表者：道坂昭廣
（人間・環境学研究科）

11月21日　『玉燭宝典』巻一を読む①
発表者：田尻健太（文学研究科）

12月19日　『玉燭宝典』巻一を読む②
発表者：永田知之

2024年

1月16日　『玉燭宝典』巻一を読む③
発表者：藤井律之

2月20日　『玉燭宝典』巻一を読む④

発表者：富嘉吟
（お茶の水女子大学・基幹研究院）
3月19日　『玉燭宝典』巻一を読む⑤
発表者：魏星（人間・環境学研究科）

古典中国語コーパスの応用研究　班長　安岡孝一
研究期間　2023年4月～2026年3月（1年目）
研究実施状況
古典中国語 Universal Dependencies の拡張対象として『日本書紀』を選定し，形態素解析のためのコーパス設計を開始した。『日本書紀』の「漢文」は，大きくα群とβ群に分かれており，α群は古典中国語に近いが，β群は上代日本語の「漢訳」である。実際にコーパスを作りかけてみたところ，β群の方が明らかに手強い。特に複雑なのが「之」と「者」の用法であり，古典中国語から「かけ離れた」用法が散見される。これらの用法を，Universal Dependencies においてどう記述するかについて，試行錯誤を繰り返している。
研究班員
所内：安岡孝一，池田巧，WITTERN, Christian，李媛
学内：
学外：鈴木慎吾（大阪大学言語文化研究科），山崎直樹（関西大学外国語学部），二階堂善弘（関西大学文学部），師茂樹（花園大学文学部），守岡知彦（国文学研究資料館研究部）
研究実施内容
2023年
4月21日　過去の共同研究班の成果（抜粋）
5月12日　『古事記』と『日本書紀』
6月2日　ICBIR 2023（LDA 2023）報告
6月16日　『遍照發揮性靈集』と『法華玄義』
7月21日　『日本書紀』Univerfsal Dependencies エディター
7月28日　『東洋学へのコンピュータ利用』第36回研究セミナー
9月8日　『日本書紀』の「之」
9月22日　『AI等の活用を推進する研究データエコシステム構築事業シンポジウム 2023』ゲラチェック
10月6日　『日本書紀』の「之」と「者」
10月20日　『じんもんこん：-）2023』ゲラチェック
11月17日　Universal Dependencies 2.13
12月1日　『日本書紀』における非漢文
2024年
1月19日　『東洋学へのコンピュータ利用』第37回研究セミナー
2月2日　『日本書紀』の「之」と「者」

隋唐石刻資料の研究　班長　倉本尚徳
研究期間　2023年4月～2027年3月（1年目）
研究実施状況
初年度である令和5年度は，計18回の研究会を開催した。隋代の重要な石刻数点を研究対象にとりあげ，人文研所蔵の拓本以外に数種の拓本画像や著録を比較対照して文字校訂と訳注作成を行った。特に隋王朝の仏教復興政策にかかわる旧北斉地域の碑刻を重点的にとりあげた。基本的に ZOOM を用いたオンラインと対面形式の双方を用いたハイブリッド形式にて開催し，会場が使えない場合などは ZOOM オンラインのみで開催した。ハイブリッド形式は，中国の大学で勤務する班員から日本では入手困難な資料や情報の提供を得られたこと，また，会場では石刻拓本の実物を目の前にし議論をかわすことができるという互いの長所をとりいれることができ，非常に有効であった。7月には北魏から唐まで見解が分かれている劉賢墓誌の年代考証にかかわり，南開大学の梶山智史氏による研究報告会を開催した。
研究班員
所内：倉本尚徳，稲本泰生，古勝隆一，永田知之，野原将揮，藤井律之，船山徹，古松崇志，宮宅潔，向井佑介，佐藤智水，打本和音，小野木聡
学内：道坂昭廣（人間・環境学研究科），池田恭哉（文学研究科），成田健太郎（文学研究科），陳錦清（人間・環境学研究科），于恒超（人間・環境学研究科），呉皙（人間・環境学研究科）

学外：河上麻由子（大阪大学大学院人文学研究科），佐野誠子（名古屋大学大学院人文学研究科），池平紀子（大阪公立大学国際基幹教育機構・現代システム科学研究科），岡田和一郎（陝西師範大学外国語学院），大西磨希子（佛教大学佛教学部），高井龍（龍谷大学世界仏教文化研究センター），戸次顕彰（大谷大学文学部），村田みお（近畿大学国際学部 国際学科），石松日奈子（東京国立博物館学芸研究部），北村一仁（河南農業大学外国語学院），李瀾（マクマスター大学（カナダ）），梁爽（南京大学文学院），梶山智史（南開大学歴史学院）

研究実施内容

2023年

4月14日　隋代石刻資料の概要
発表者：倉本尚徳

4月28日　龍藏寺碑（1）　発表者：倉本尚徳

5月12日　龍藏寺碑（2）　発表者：倉本尚徳

5月26日　龍藏寺碑（3）　発表者：倉本尚徳

6月9日　龍藏寺碑（4）　発表者：倉本尚徳

6月23日　龍藏寺碑（5）　発表者：倉本尚徳

7月14日　龍藏寺碑（6）　発表者：倉本尚徳

7月28日　劉賢墓誌再考　発表者：梶山智史（南開大学　歴史学院）

9月22日　龍藏寺碑（7）　発表者：倉本尚徳

10月13日　曹子建碑（1）
発表者：成田健太郎（文学研究科）

10月27日　曹子建碑（2）
発表者：成田健太郎（文学研究科）

11月24日　静墓誌（1）　発表者：藤井律之

12月8日　静墓誌（2）　発表者：藤井律之
曹子建碑（3）
発表者：成田健太郎（文学研究科）

12月22日　詔立僧尼二寺碑（1）
発表者：池平紀子（大阪公立大学国際基幹教育機構・現代システム科学研究科）

2024年

1月12日　詔立僧尼二寺碑（2）
発表者：池平紀子（大阪公立大学国際基幹教育機構・現代システム科学研究科）

1月26日　詔立僧尼二寺碑（3）
発表者：池平紀子（大阪公立大学国際基幹教育機構・現代システム科学研究科）

2月9日　王婆羅□造像記（1）
発表者：佐野誠子（名古屋大学大学院人文学研究科）

3月8日　王婆羅□造像記（2）
発表者：佐野誠子（名古屋大学大学院人文学研究科）

交流と相克のユーラシア東方史　班長　古松崇志

研究期間　2023年4月～2026年3月（1年目）

研究実施状況

研究テーマの「交流と相克のユーラシア東方史」について具体的に考察するための題材として，南宋時代の史書『三朝北盟会編』の会読を進めた。12回にわたって『三朝北盟会編』の会読をおこない，『中華再造善本』所収の中国国家図書館（北京図書館）所蔵の明鈔本を底本に，テキストの校訂・訳注作業を進め，巻二十三から巻二十四までを読み終えた。オンライン会議・対面のハイブリッドおよびオンライン会議のみの形式で開催した。

研究班員

所内：古松崇志，矢木毅，村上衛，髙井たかね，楊翊

学外：伊藤一馬（大阪大学大学院文学研究科），遠藤総史（名古屋大学大学院文学研究科），舩田善之（広島大学人間社会科学研究科），古畑徹（金沢大学人間社会研究域国際学系），岩本真利絵（釧路公立大学），木村可奈子（滋賀県立大学人間文化学部），渡辺健哉（大阪公立大学文学研究科），飯山知保（早稲田大学文学学術院），井黒忍（大谷大学文学部），岩井茂樹（京都橘大学文学部），小野達哉（同志社大学文学部），加藤雄三（専修大学法学部），小林隆道（神戸女学院大学文学部），齊藤茂雄

（帝京大学文化財研究所），承志（追手門学院大学基盤教育機構），城地孝（同志社大学文学部），武田和哉（大谷大学社会学部），藤本猛（京都女子大学文学部），藤原崇人（龍谷大学文学部），水越知（関西学院大学文学部），毛利英介（関西大学東西学術研究所），Emily Wang（早稲田大学文学学術院），Lance Pursey（早稲田大学文学学術院），李京澤（早稲田大学文学学術院），蔡長廷（中原大学）

研究実施内容

2023 年

5 月 9 日　『三朝北盟会編』巻二十三会読
発表者：古松崇志

5 月23日　『三朝北盟会編』巻二十三会読
発表者：髙井たかね

6 月 6 日　『三朝北盟会編』巻二十三会読
発表者：矢木　毅

6 月20日　『三朝北盟会編』巻二十三会読
発表者：武田和哉

7 月 4 日　『三朝北盟会編』巻二十三会読
発表者：飯山知保

7 月11日　研究発表 南宋末期の士人の科挙観 ― 姚勉「癸丑廷対」を中心に ―
発表者：山西慶哉

7 月18日　『三朝北盟会編』巻二十三会読
発表者：毛利英介

10月24日　『三朝北盟会編』巻二十四会読
発表者：伊藤一馬

11月21日　『三朝北盟会編』巻二十四会読
発表者：小野達哉

12月 5 日　『三朝北盟会編』巻二十四会読
発表者：藤本　猛

12月19日　『三朝北盟会編』巻二十四会読
発表者：岩本真利絵

2024 年

1 月16日　『三朝北盟会編』巻二十四会読
発表者：舩田善之

1 月30日　『三朝北盟会編』巻二十四会読
発表者：井黒　忍

個人研究

人文学研究部

近世社会解体過程の研究　岩城　卓二
近代西洋音楽史　岡田　暁生
戦前期日本の工業化と華僑ネットワーク　籠谷　直人
イギリス・アイルランド近現代史　小関　隆
技術・自然・（ポスト）現代性の思想 ― 哲学的探求　佐藤　淳二
近代天皇制の文化史的研究　高木　博志
近代日本美術と西洋　高階絵里加
精神分析的知の思想史的位置づけ　立木　康介
〈非人間〉の歴史と記憶の存在論　直野　章子
フランス象徴主義と文学的モデルニテ　森本　淳生
西アフリカと南アジアの宗教，憑依，間身体性　石井　美保
近代トランスコーカサス（特にグルジア）における匪賊　伊藤　順二
近現代日本の社会史，思想史，技術史　KNAUDT, Till
近現代日本の社会経済と環境　小堀　聡
汚穢と非 ― 秩序をめぐる日常現場の倫理　酒井　朋子
アンシャン・レジーム期フランスにおける自己・感覚・真理　菅原百合絵
東アジアにおける生命科学と「自然」　瀬戸口明久
近現代日本の社会運動・社会思想　福家　崇洋
農業史の再構築　藤原　辰史
共同的認識実践の歴史　岡澤　康浩
近代日本民俗誌システムの研究　菊地　暁
近代歌舞伎における懐古・改良意識および伝統劇化　金　智慧
近代フランス文学・芸術における「遊戯」jeu の再検討　藤野　志織

東方学研究部

川西走廊の漢藏諸語の記述研究　池田　巧

中国共産党史の研究　石川　禎浩
イスラーム東漸史の研究　稲葉　穣
東アジア仏教美術史の研究　稲本　泰生
仏教研究知識ベース ― 禅仏教を例として
WITTERN, Christian
中国注釈学史研究　古勝　隆一
中央アジア東部の仏教文化　FORTE, Erika
インド・中国における仏教の学術と実践
船山　徹
10～13 世紀ユーラシア東方における王朝間関係の研究　古松　崇志
秦漢制度史の研究　宮宅　潔
近代華南沿海の社会経済制度の変容　村上　衛
高麗官僚制度研究　矢木　毅
文字コード理論　安岡　孝一
六朝隋唐仏教史の研究　倉本　尚徳
中国絵画史の研究　呉　孟晋
中国中世近世の文学理論　永田　知之
中国イスラームの研究　中西　竜也
上古中国語音韻史の研究　野原　将揮
東アジア伝統科学の研究　平岡　隆二
歴史考古学的方法にもとづく中国文化研究
向井　佑介
東方学における対象の論理学的研究　白須　裕之
中国家具とその使用に関する研究　髙井たかね
20 世紀台湾農業経済の変容と自治・自律
都留俊太郎
中国古代中世の官制史　藤井　律之
東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究　宮　紀子
近世以降日本における中国の戯曲と小説の受容
楊　維公
人文情報学による日本古辞書の研究　李　媛

事業概況

・Kyoto Lectures 2023

2023 年 5 月 9 日
於　フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時に Zoom で配信）
The Stolen Robe: Copyright and its Metaphors in Medieval Japanese Poetry
講演者：Pier Carlo Tommasi（ハワイ大学）

・Kyoto Lectures 2023

2023 年 5 月 31 日
於　フランス国立極東学院京都支部（EFEO）・イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時に Zoom で配信）
Japonisme, a French Art Form
講演者：Sophie Basch（ソルボンヌ大学）

・国際ワークショップ「Techniques of the Shichōsha: On the Technoscientific Formation of Cultural Subjects/〈視聴者〉の系譜：ある文化的主体の科学技術的形成」

2023 年 6 月 17 日，18 日
於　京都大学人文科学研究所本館・総合研究 4 号館講義室（共通 4）
6 月17日　高柳健次郎の「無線遠視法」研究：「遠視」とは何か？
河西　棟馬（東京工業大学）
注視せざるものたちの科学：視聴者のメディア論と人間工学の交錯　岡澤　康浩
The “Quest for a ‘Seeing’ Machine”: Frogs, Jūdō, and the Origins of Deep CNNs　Hansun HSUING（ダラム大学）
操作者の視覚：科学万博とコンピュータ・グラフィックス
大久保　遼（明治学院大学）
〈表面〉を見る吉田喜重：テレビ・ドキュメンタリー番組『美の美』シリーズについて　高部　遼（東京大学）
クリス・マルケル作品における観客の視聴行為の変遷について：受動的視聴から能動的体験へ　小城　大知（東京大学）
デジタル・マーケティング戦略における「触覚的知覚」制御：メディア消費とアテンション・エコノミーの変貌
難波　阿丹（聖徳大学）

議長：河村　　賢（大阪大学），
寺地美奈子（筑波大学）
基調講演 1：Continuity, Rupture, and the Ecological Collapse: Shichōsha and the Question of Time
Alexander ZAHLTEN
（ハーバード大学）
ディスカッサント：飯田　　豊
（立命館大学）

6月18日　Observing the Observers: Opinion Polling and Televisual Temporality in the Twentieth Century
Adam BRONSON（ダラム大学）
Orchestrated listening? Managing the Sonic Worlds of the Japanese Sound Hunter　Martyn SMYTH
（シェフィールド大学）
視聴者集団としてのオタクとビデオ利用：アニメファンがテレビ文化を趣味にすることが可能となるプロセスに着目して　永田　大輔（明星大学）
議長：大尾　侑子（東京経済大学）
基調講演 2：国民生活時間調査と「視聴者」　喜多　千草（京都大学）
ディスカッサント：Takuya TSUNODA
（コロンビア大学）

・Kyoto Lectures 2023
2023 年 6 月 20 日（Zoom で開催）
Everyday uncertainties
講演者：Antonio Manieri（ナポリ東洋大学）

・第 2 回台湾大学・京都大学人文科学研究会「近代化を考える」
2023 年 6 月 30 日
於　京都大学人文科学研究所分館 2F 大会議室
中国史における属国制度とその終焉　甘懐真
（台湾大学歴史学科教授・
日本研究センター執行委員）
中世文学及び思想の形成 ― 漢籍との関わりの視座から　曹景恵（台湾大学日本語文学科副教授・
日本研究センター執行委員）
歌舞伎の御一新 ― 脚本改良を手掛かりに　金智慧
原発事故後の土地でものを育て，採り，食べ，住まうということ ― 福島県富岡町・川内村における人と生活環境 ―　酒井　朋子

・Kyoto Lectures 2023
2023 年 7 月 12 日
於　フランス国立極東学院京都支部（EFEO）
（同時に Zoom で配信）
Kataezome ―The Artistic Legacy of Serizawa Keisuke in Catalonia―
講演者：Ricard Bru（バルセロナ自治大学）

・人文研アカデミー 2023 夏期公開講座「名作再読 15 ― いま読んだらこんなに面白い」
2023 年 7 月 15 日
於　京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
（同時に Zoom で配信）
インド哲学から再読する『意識と本質』（井筒俊彦）　船山　　徹
川蟹になったおもかさま ― 石牟礼道子『椿の海の記』　酒井　朋子
世界史を紡ぐ『危険な言語』 ― エスペラントの魅力を探る　都留俊太郎

・人文研アカデミー 2023 シンポジウム「もう一つの〈キリシタン信徒発見〉― 1879 年茨木・千提寺とフランス人宣教師」
2023 年 7 月 17 日
於　京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室
（同時に Zoom で配信）
パリ外国宣教会の「古キリシタン」探訪 ― マラン・プレシ神父の千提寺村発見を中心に ―
マルタン・ノゲラ・ラモス
（フランス国立極東学院准教授）
禁教・潜伏・発見：キリシタンの 3 世紀（1614–c. 1920）　平岡　隆二
聖地と呼ばれた千提寺 ― 遺物からみるキリシタン発見，その後 ―
桑野　　梓（茨木市立文化財資料館学芸員）

再考，1920 年，茨木キリシタン遺物の発見
高木　博志

・第 36 回「東洋学へのコンピュータ利用」研究セミナー

2023 年 7 月 28 日
　於　京都大学人文科学研究所本館セミナー室 1
アイヌ語訳『五倫名義解』Universal Dependencies 並行コーパスへの挑戦
安岡　孝一・安岡　素子（京都大学）
言語モデルを用いた漢文の返り点付与と書き下し文生成　王昊・清水博文・河原大輔（早稲田大学）
大型漢籍テキスト・データベースにおける分類型検索のための一考察　Christian Wittern
文字オントロジーにおけるマークアップに関する試論　守岡知彦（国文学研究資料館）
国立国語研究所が所蔵する 1948 年読み書き能力調査の資料について　高田智和（国立国語研究所）

・人文研アカデミー 2023 連続セミナー「読んで旅して考える ― 文献研究とフィールドワーク」

2023 年 9 月 29 日，10 月 13 日，20 日，27 日
　於　京都大学人文科学研究所本館セミナー室 1（同時に Zoom で配信）
9 月29日　葱嶺の彼方へ ― 玄奘三蔵とイシク・クル湖・パミールの旅　稲葉　穣
10月13日　イラン横断紀行 ― シャー・ルフの遠征と聖墓参詣の旅を辿って
杉山　雅樹（京都外国語大学）
10月20日　ヒマラヤの地にメシア主義の痕跡をたどる ― バルティスタン地方に居住するチベット系ムスリムたち
小倉　智史（東京外国語大学）
10月27日　地上の北辰，めぐる衆星 ― 中国西北部のムスリム聖者墓とイスラーム神秘主義教団　中西　竜也

・王寺賢太『消え去る立法者』公開合評会

2023 年 10 月 22 日
　於　京都大学人文科学研究所本館セミナー室 1
開会の言葉：森本淳生
司会：菅原百合絵
コメンテーター：小泉義之（立命館大学），佐藤淳二，森川輝一（京都大学）
応答：王寺賢太（東京大学）

・Kyoto Lectures 2023

2023 年 10 月 31 日
　於　フランス国立極東学院京都支部（EFEO）（同時に Zoom で配信）
The Urban Development of the City of Kaesong: From the Koryō Period to Twentieth-Century DPR Korea　講演者：Élisabeth Chabanol（フランス国立極東学院ソウル支部）

・人文研アカデミー 2023 レクチャー上映会「大正期の映画と民衆宗教」

2023 年 11 月 5 日
　於　京都大学百周年時計台記念館百周年記念ホール
日本における教育・宣伝映画の歩みと宗教 ― 無声映画の時代 ―　冨田　美香（国立映画アーカイブ）
大正から昭和初期の金光教における映画制作と上映活動　兒山　陽子（金光図書館）
司会：高木　博志
無声映画上映会
『性は善』（1924 年 監督：川口吉太郎 25 分），『豪傑児雷也』（1921 年 監督：牧野省三 21 分）
　活弁士：夫婦（みょうと）活弁士むっちゃん・かっちゃん
楽士：野原　直子

・共同利用共同研究拠点国際学術集会「中央アジアにおける文化財の保全と再生」

2023 年 11 月 10 日
　於　京都大学人文科学研究所本館セミナー室 1（同時にオンラインで配信）
開会挨拶　岩井俊平（龍谷大学龍谷ミュージアム）
基調講演：One Century of DAFA: Achievements and Perspectives
Henri-Paul FRANCFORT（フランス学士院）

報告 I：The Central Asian branch of ArScAn (Archaeology and Science of Antiquity, CNRS-University Paris-Nanterre): Main Expeditions and Current Research
Corinne DEBAINE-FRANCFORT（フランス国立科学研究センター）
報告 II：Gāndhārī Documents from South and Central Asia: New Discoveries and Research
Stefan BAUMS（ミュンヘン大学）
閉会挨拶　稲葉　穣
司会：慶昭蓉（京都大学白眉センター）

・人文研アカデミー 2023 公開講演会「中国学術の源と流れ ― 章学誠を手がかりに」

2023 年 11 月 18 日
於　京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室（同時に Zoom で配信）
源を追究する思想 ― 章学誠の場合　古勝　隆一
20 世紀中国における「学術史」　竹元　規人
学術の流別と章学誠の創見　内山　直樹

・Kyoto Lectures 2023

2023 年 11 月 22 日
於　フランス国立極東学院京都支部（EFEO）（同時に Zoom で配信）
“Hokusai”: The Name that Sold Books
講演者：Ellis Tinios（リーズ大学）

・人文研アカデミー 2023 国際シンポジウム「中国と日本の児童文学における家族」

2023 年 11 月 25 日
於　京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室（同時に Zoom で配信）
私の目のなかの家族，愛，そして児童文学におけるそれらの運用について
秦文君（中国作家協会児童委員会副主任，上海作家協会副会長，中日児童文学美術交流協会会長）
日本児童文学と小学校国語教科書 ―「家族」の描かれ方をてがかりに　成實朋子（大阪教育大学教授）
コメンテーター：唐亜明（北京《小活字》社編集長）
コーディネーター・通訳：沈恬恬（東京大学社会科学研究所／日本学術振興会特別研究員 PD）
司会：立木康介

・人文研アカデミー 2023 研究セミナー「仏教天文学と文化交流」

2023 年 12 月 3 日
於　京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室（同時に Zoom で配信）
「仏教天文学説の起源と変容」研究班について
小林　博行（中部大学人文学部教授）
6 世紀の西域仏教石窟寺院の壁画に見られる須弥山図像について
檜山　智美（国際仏教学大学院大学特任研究員）
円通の暦学とその影響 ― 応天暦を中心として ―
髙橋あやの（大東文化大学東洋研究所准教授）
良識としての暦道 ― 小嶋濤山『仏国暦象弁妄』と陰陽道の視点
梅田　千尋（京都女子大学文学部教授）
平面天体儀「両曜運旋略儀」と環中「須弥山儀」
梅林　誠爾（熊本県立大学名誉教授）
司会：平岡隆二

・テレビジョン・アーカイブスを再想像する：科学技術とメディア論から考える未来

2023 年 12 月 4 日
於　京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室（同時に Zoom で配信）
開会挨拶
ショーン・ハンスン（ダラム大学），岡澤康浩
アーカイブスの現状
村上聖一（NHK 放送文化研究所），前島正裕（国立科学博物館），前川秀樹（NHK アーカイブス），山岸清之進（NHK アーカイブス）
コメント　河西　棟馬（東京工業大学），近藤　和都（大妻女子大学）
閉会挨拶　喜多　千草（京都大学）

・人文研アカデミー 2023 研究セミナー「実験性の生態学：人新世における多種共生」

2023 年 12 月 7 日

於　京都大学人文科学研究所本館 1 階セミナー室 1

人新世を実験する ― 多種共生のための予備検討

モハーチ・ゲルゲイ（大阪大学人間科学研究科）

家畜化する害虫 ― フィールドにおける実験

瀬戸口明久

だれがいるの？大阪ベイエリアの埋立地で生物多様性を見守る

ルトゥゼイ・エミリー（大阪大学人間科学研究科）

コメント：石井美保

・Kyoto Lectures 2023

2023 年 12 月 12 日

於　フランス国立極東学院京都支部(EFEO)（同時に Zoom で配信）

Japan and the Journey of Soy: From Food from Somewhere to Washoku

講演者：Felice Farina

（ナポリ大学オリエンターレ）

・人文研アカデミー 2023 シンポジウム「催眠とアンドロイド ― ヴィリエ・ド・リラダン『未来のイヴ』をめぐるふたつの会話」

2023 年 12 月 16 日

於　京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室（同時に Zoom で配信）

第一部　催眠と意識の謎

第二部　人間の営みを再現する機械

登壇者：福田　裕大（近畿大学国際学部准教授），上尾　真道（広島市立大学国際学部准教授），井上　卓也（日本学術振興会特別研究員-PD），宇佐美達郎（京都大学非常勤講師），中筋　　朋（京都大学人間・環境学研究科准教授）

コメンテーター：木元豊（武蔵大学人文学部教授）

司会：森本　淳生

・特別講演会「Between Japan and China: the Constitution of Henri Cernuschi's（1821-1896）Ancient Chinese Bronze Collection」

2023 年 12 月 21 日

於　京都大学人文科学研究所本館 1 階セミナー室 1

講演者：Olivier VENTURE（École Pratique des Hautes Études 教授）

・第 37 回「東洋学へのコンピュータ利用」研究セミナー

2024 年 1 月 19 日

於　国立国語研究所 2F 多目的室

『學文化字典』の異体字　安岡　孝一

日本人の読み書き能力 1948 年調査のナゾ：IBM システムの役割など　横山詔一，高田智和（国立国語研究所），前田忠彦（統計数理研究所），久野雅樹（電気通信大学），相澤正夫（国立国語研究所）

国立国語研究所の漢字研究関係資料

高田　智和，寺島　宏貴，中島　彩花（国立国語研究所）

CHISE の IPFS 化における諸課題について

守岡　知彦（国文学研究資料館）

TEI Lex-0 を利用した日本古辞書の構造化記述李媛資料横断的な漢字音・漢語音データベースの課題と進捗 ― よりよい運用・連携を目指して ―

加藤　大鶴（跡見学園女子大学）

・Kyoto Lectures 2024

2024 年 1 月 22 日

於　フランス国立極東学院京都支部（EFEO）（同時に Zoom で配信）

Japanese Traditional Kites. From Regional Studies to the World of Arts　講演者：Cecile Laly

（ソルボンヌ大学，京都精華大学）

・日仏国際シンポジウム「La fiction épistolaire en France du XIXe au XXIe siècle」

2024 年 1 月 27 日，28 日

於　京都大学人文科学研究所本館 4 階大会議室

（同時に Zoom で配信）

1 月 27 日

OUVERTURE

Claudie BERNARD（ニューヨーク大学）

Aurélia Steiner, une œuvre interrogeant les modalités textuelles de Marguerite Duras

関未玲（立教大学）

De la polyphonie à la monodie: Alexis ou le traité du vain combat（1929）de Marguerite Yourcenar, entre l'aveu et le rêve

村中由美子（白百合女子大学）

Paul Valéry et le genre épistolaire ― autour de « Lettre d'un ami » et de « Lettre de Madame Émilie Teste »　森本　淳生

L'épistolaire dans l'œuvre de Rachilde

Jelena JOVICIC

（ブリティッシュコロンビア大学）

1 月28日　L'épistolaire dans la littérature d'anticipation, ou comment faire dialoguer les mondes ?　Claire BAREL-MOISAN

（フランス国立科学研究センター）

Comment réconcilier la critique sociale et l'imagination scientifique ? La pratique médiatique autour des Lettres de Malaisie de Paul Adam

合田　陽祐（山形大学）

Possibilité d'une confession épistolaire: Volupté de Sainte-Beuve

池田　　潤（白百合女子大学）

Quartette verbal dans Jacques de George Sand　橋本　知子（千葉大学）

L'Abbé Aubain de Mérimée: la fiction épistolaire ou la fabrique de l'illusion

Xavier BOURDENET

（レンヌ第二大学）

L'émigration royaliste en toutes lettres

Claudie BERNARD

CLÔTURE　森本　淳生

・人文研アカデミー 2023 シンポジウム「近現代天皇制を考える学術集会 ―「建国記念の日」に問う」

2024 年 2 月 11 日

於　京都大学人文科学研究所本館・総合研究 4 号館共通第 1 講義室

昭和天皇の外遊（1921 年）をめぐるイメージ・ポリティクス　紙屋　牧子（玉川大学）

慰撫と反覆 ― 歌の〈私〉と天皇制　石井　美保

「理念としての天皇」論　福家　崇洋

天皇制と陵墓問題 ― 世界遺産名称「仁徳天皇陵古墳」を問う　高木　博志

司会：小堀　　聡

・人文研アカデミー 2023 シンポジウム「気候変動・災害多発時代に向き合う人文学 ― 東アジア災害人文学の挑戦」

2024 年 2 月 17 日

於　京都大学人文科学研究所本館 1 階セミナー室 1（同時に Zoom で配信）

司会・趣旨説明：山　　泰幸

（関西学院大学災害復興制度研究所長）

語り交わし編み合う学融の場へ向けて ― 頻発災難圧を飛翔する　岡田　憲夫（京都大学名誉教授，関西学院大学災害復興制度研究所顧問）

気候変動と天道策 ― 災難をさける「理致」

趙　　寛子（ソウル大学日本研究所教授）

気候変動と風土変動

張政遠（東京大学大学院総合文化研究科准教授）

現場で活きる人文学の可能性 ― 桜島防災を事例として　大西　正光（京都大学大学院工学研究科教授）

中国災害考古学事始　向井　佑介

コメント：多々納裕一（京都大学防災研究所教授），上原麻有子（京都大学大学院文学研究科教授）

・Kyoto Lectures 2024

2024 年 2 月 21 日

於　フランス国立極東学院京都支部（EFEO）/イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時に Zoom で配信）

Izumi Kyōka's Animistic Prose. When the Semantic

becomes Mantic　Cody Poulton
（カナダ・ヴィクトリア大学名誉教授）

・第 19 回京都大学附置研究所・センターシンポジウム「京都からの挑戦　地球社会の調和ある共存に向けて」

2024 年 3 月 2 日
　於　まつもと市民芸術館
開会挨拶　時任　宣博（京都大学理事・副学長）
森の空気を吸って育ったスーパーカー
　今井　啓雄（ヒト行動進化研究センター教授［副センター長］）
季節をはかる分子メカニズム ― 植物が季節を感知するしくみ ―
　工藤　洋（生態学研究センター教授）
量子コンピュータと素粒子の世界
　伊藤　悦子（基礎物理学研究所准教授）
経済学研究における京大式フィールドワーク
　翟亜蕾（東南アジア地域研究研究所准教授）
生きる力 ― 染色体研究から教わったこと ―
　松本　智裕（生命科学研究科附属放射線生物研究センター教授）
パネルディスカッション「研究の未来，京大の未来」
　パネリスト：湊長博（京都大学総長），時任　宣博
　司会：辻井　敬亘（京都大学研究連携基盤長）

・第 19 回京都大学人文科学研究所 TOKYO 漢籍 SEMINAR『清と濁の間 ― 銘文と考古資料が語る曹操とその一族』

2024 年 3 月 11 日
　於　学術総合センター内　一橋大学一橋講堂中会議場
開会挨拶　岩城　卓二
三世紀の牛車と騎馬 ― 曹操から楊彪への書簡を糸口として　岡村　秀典（京都大学名誉教授・公益財団法人黒川古文化研究所長）
厚葬から薄葬へ ― 曹操とその一族の墓を掘る
　向井　佑介
石牌銘文からさぐる曹操一族の宮廷生活
　森下　章司（大手前大学国際日本学部教授）
司会：永田　知之

・ブラフマニズムとヒンドゥイズム ― 南アジアの宗教と社会の連続性と非連続性　第 10 回シンポジウム「『マハーバーラタ』研究の最前線 ― 伝承の形成と物語の展開 ―」

2024 年 3 月 26 日
　於　京都大学人文科学研究所 4 階大会議室
導入解説　手嶋　英貴（龍谷大学教授）
『マハーバーラタ』の口頭伝承的特徴について
　髙橋　健二（東京大学大学院助教）
『マハーバーラタ』に描かれた王権儀礼の特徴
　手嶋　英貴
古代インド叙事詩の神器戦における記憶と呪句の役割　川村　悠人（広島大学大学院准教授）
ヴィシュヴァルーパ物語の伝承と変容
　堂山英次郎（大阪大学大学院教授）
指定コメント
　水野　善文（東京外国語大学大学院教授）

・Kyoto Lectures 2024

2024 年 3 月 29 日
　於　フランス国立極東学院京都支部（EFEO）/イタリア国立東方学研究所（ISEAS）（同時に Zoom で配信）
Edo Popular Literature and Female Readership
　Mario Talamo
（国際日本文化研究センター外国人研究員）

招へい研究員

・張　珮琪　政治大學斯拉夫［スラブ］語文學系専任［准教授］
　類型論から見た西夏語文法の構造分析
　（文化生成研究客員部門）
　受入教員　池田教授
　期間　2023 年 4 月 1 日～2023 年 9 月 30 日
・陳　光興　国立陽明交通大学名誉教授
　京都学派の遺産と新たな展開 ― 予備的研究
　（文化連関研究客員部門）

受入教員　直野教授
期間　2023年4月1日～2023年9月30日
・DISTEFANO, Anthony　カリフォルニア州立大学フラトン校公衆衛生研究科教授
米国と日本の多様なコミュニティにおける健康の社会的決定要因に関する比較研究
（文化生成研究客員部門）
受入教員　立木教授
期間　2023年10月1日～2023年12月31日
・MORETTI, Constantino　フランス極東学院准教授
救世にかかわる敦煌出土仏教写本の研究
（文化連関研究客員部門）
受入教員　稲葉教授
期間　2023年10月1日～2023年12月31日
・BICKERS, Robert　ブリストル大学教授
サバルタン移民と中国の条約港
（文化連関研究客員部門）
受入教員　村上教授
期間　2024年1月1日～2024年3月31日
・BERNARD, Claudie　ニューヨーク大学教授
19世紀末フランスにおける書簡体形式の虚構作品
（文化生成研究客員部門）
受入教員　森本教授
期間　2024年1月5日～2024年4月4日

招へい外国人学者

・HUBBARD, James Bert　スミス大学教授
中国・日本仏教文献/仏教と脳科学に関する研究
受入教員　Wittern教授
期間　2021年10月1日～2023年9月30日
・張　利軍　東北師範大学歴史文化学院副教授
夏商周国家構造の考古学研究
受入教員　向井准教授
期間　2022年6月13日～2023年4月26日
・高　婧聡　東北師範大学歴史文化学院副教授
西周時代の国家構造とその歴史的影響
受入教員　向井准教授
期間　2022年6月13日～2023年4月26日
・李　皓　東北師範大学歴史文化学院副教授
辛亥革命期の中国東北辺境政局に対する日本の対応
受入教員　石川教授
期間　2022年10月24日～2023年10月14日
・楊　奎松　華東師範大学中国当代史研究センター主任
1949年以前の毛沢東の前半生とその思想についての考証
受入教員　石川教授
期間　2023年1月1日～2023年12月31日
・KATA, Prachatip　カセサート大学講師
The living with deteriorated soil: The transformative ethics in troubled naturecultural worlds
受入教員　酒井准教授
期間　2023年4月5日～2023年4月27日
・劉　家幸　国立成功大学助理教授
南源性派と『鑑古録』：仏教関連文体の類型に注目して
受入教員　永田准教授
期間　2023年6月15日～2023年8月14日
・高　震寰　中央研究院歴史語言研究所助研究員
日本での秦漢史研究の現状に関する考察及び研究経験の交換
受入教員　宮宅教授
期間　2023年10月31日～2023年11月13日
・孫　聞博　中国人民大学教授
秦の統一における軍事史の研究
受入教員　宮宅教授
期間　2023年11月26日～2023年12月13日
・廖　欽彬　中山大学教授
中日の近代哲学・思想の交差に関する研究
受入教員　福家准教授
期間　2024年1月1日～2024年12月31日
・金　成奎　全北大學校教授
皇帝の死と儀礼 ― 北宋七帝の喪葬儀礼・即位儀礼・弔問外交
受入教員　古松教授

期間　2024年1月29日～2024年2月19日
・王　家動　山東交通学院准教授
日本の社会文化
受入教員　菊地助教
期間　2024年2月2日～2025年1月31日

外国人共同研究者

・趙　一水　高麗大学民族文化研究院訪問学者
近世朝鮮及び清朝の政治的言説における日本
受入教員　矢木教授
期間　2022年4月6日～2023年4月5日
・胡　頎　台湾大学中国文学研究所博士候選人
南北朝時代における国家意識の構築とその表象
― 外交使節・活動を中心に
受入教員　永田准教授
期間　2022年4月22日～2023年4月21日
・楊　翊　ハーバード大学博士後期課程
叙述史学から分析史学へ：唐宋時代の史学の転換
受入教員　古松教授
期間　2022年8月21日～2023年8月20日
・BROWNING, Jason　インディアナ大学ブルーミントン校博士課程
Early Medieval Central Asian Buddhist Philosophy as Reflected in Early Japanese and Islamic Scholastic Traditions: Examining the Transmission of the Doctrine of Momentariness
受入教員　中西准教授
期間　2022年8月22日～2024年8月21日
・劉　素桂　蘭州大学外国語学院副教授
近代日本人による中国文化財調査
受入教員　向井准教授
期間　2022年12月2日～2023年11月30日
・郭　珮君
日本中世の仏教願文における神国と仏国
受入教員　倉本准教授
期間　2023年2月1日～2023年7月31日
・陳　詩蘭　江蘇省社会科学院歴史研究所助理研究員
東北アジアにおけるサンタン交易の盛衰
受入教員　古松教授
期間　2023年10月1日～2024年9月30日
・Sabine Hinrichs　ウィーン大学 PhD candidate
民国期中国の歴史学界における元朝とモンゴル帝国についての論述
受入教員　古松教授
期間　2023年12月7日～2024年2月10日
・VERDON, Noémie Claire　ローザンヌ大学 Maître assistante
7-11世紀の中央アジア・南アジア史研究
受入教員　稲葉教授
期間　2024年2月1日～2024年4月11日
・HOMAYUN, Shamin Paul　オーストラリア国立大学博士候補生
アフガニスタンと日本における文化記憶の共有：バーミヤーン，シルクロード，玄奘
受入教員　稲葉教授
期間　2024年3月1日～2024年4月30日

外国人研究生

・石垣　章子
漢訳仏典として位置付けられた疑偽経典の成立と思想の系譜
受入教員　船山教授
期間　2018年4月1日～2025年3月31日
・Depairon, Philippe
Representations of Memories of Traumatic Events in Contemporary Japan
受入教員　直野教授
期間　2022年4月1日～2024年3月31日
・荘　帆
京都における羅振玉の生活と思想
受入教員　石川教授
期間　2022年4月1日～2023年7月30日
・丁　麗瓊
感情史の視点から見る日中戦争時期の中国共産党新聞宣伝史の研究（1931-1945）
受入教員　石川教授

期間　2022 年 5 月 1 日～2023 年 4 月 30 日
・Nathaniel Lovdahl
唐と宋王朝の仏教受戒歴史
受入教員　船山教授
期間　2022 年 6 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
・申　晴
清末以降の幣制改革
受入教員　村上教授
期間　2022 年 9 月 1 日～2023 年 10 月 15 日
・黄　蓉
唐・宋・西夏時代における漢，チベットの薬師仏図像とその信仰に関する研究
受入教員　稲本教授
期間　2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日
・姜　伊
漢唐時期における天象図の変遷についての考古学的研究
受入教員　向井准教授
期間　2022 年 10 月 1 日～2023 年 9 月 30 日
・李　瀾
唐代の石刻造像銘と中国仏教実践
(Stone Inscriptions and Chinese Buddhist Practices in the Tang Dynasty)
受入教員　倉本准教授
期間　2023 年 1 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
・陸　家振
近代長江流域日本人商会の発展と変遷
受入教員　村上教授
期間　2023 年 9 月 13 日～2024 年 9 月 13 日
・蔣　天穎
中国中古時期の墓における道教要素の研究
受入教員　向井准教授
期間　2023 年 10 月 1 日～2024 年 3 月 31 日
・皮　艾琳
漢唐の墓葬図像配置に関する研究
受入教員　向井准教授
期間　2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日
・王　依依
明清回儒思想と回民社会 ― 葬儀文化の儒化を中心に ―
受入教員　中西准教授
期間　2023 年 10 月 1 日～2024 年 9 月 30 日
・李　奥
中古華厳経典文献研究：敦煌を中心に
受入教員　永田准教授
期間　2023 年 11 月 1 日～2025 年 1 月 31 日

出版物

紀要
・人文学報　第 121 号（紀要第 199 冊）
2023 年 6 月 20 日刊
・東方学報　98 冊（紀要第 200 冊）
2023 年 12 月 25 日刊
・ZINBUN number54
2024 年 3 月刊

研究報告その他

・東方學資料叢刊　第 30 冊
2023 年 6 月 30 日刊
・センター研究年報 2023
2023 年 9 月 30 日刊